

令和 2 年度
事業報告書



社会福祉法人阪南市社会福祉協議会

令和 2 年 4 月 1 日 ～ 令和 3 年 3 月 31 日

目 次

1. 阪南市社会福祉協議会概要	
(1) 社協の概要	3
(2) 役員名簿	4
(3) 評議員会名簿	5
(4) 組織構成会員団体一覧	6
(5) 事務局体制	7
2. 会議	
法人運営に関する会議の開催	8
地域福祉推進に関する会議の開催①	10
地域福祉推進に関する会議の開催②	11
阪南市等が主催する会議への参加	12
その他の会議・研修等	13
3. 事業報告	
(1) 法人本部拠点	
地域支え合い活動協力金(会員募集)	15
広報誌発行及びホームページ維持管理事業	16
ボランティアセンター事業	17
市民活動センター運営事業	18
小地域ネットワーク推進事業	19
阪南市介護者(家族)の会支援事業	22
日常生活自立支援事業	23
福祉資金貸付事業	24
地域力強化推進事業	27
きらめきアート作品展(当事者組織支援事業)	28
福祉農園	29
生活困窮者自立支援事業	30
生活支援・介護予防サービス協議体運営事業	31
地域介護予防事業	32
民生委員児童委員協議会事務局事業	33
老人クラブ連合会事務局事業	34
善意銀行事業	35
阪南市地域交流センター「ふれ愛ホーム」	36
地域交流館管理運営事業	37
赤い羽根共同募金運動(一般募金)	39
歳末たすけあい運動	40
不動産賃貸業	41
下荘・桃の木台圏域コミュニティソーシャルワーカー(CSW)事業	42
生活サポート商品券交付事業	43
(2) 地域包括支援センター拠点	
総合相談支援業務	44
権利擁護業務	44
包括的・継続的ケアマネジメント	45
地域ケア会議推進事業	46
介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力	47
在宅医療・介護連携の推進事業	48
介護予防事業普及啓発活動への協力	48
任意事業(介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業)	49
認知症施策の推進	50
介護予防サービス計画の作成(指定介護予防支援事業)	51
認知症啓発業務	52
その他の会議・研修等	53
掲載メディア資料	59

1. 社会福祉法人阪南市社会福祉協議会概要(令和3年3月31日現在)

(1) 社協の概要

名 称	社会福祉法人阪南市社会福祉協議会
設立年月日	昭和 56 年 3 月 31 日
法人認可	昭和 56 年 7 月 15 日
所 在 地	大阪府阪南市尾崎町 1 丁目 18 番 15 号
役 員	【理事】定数 17 名(会長 1 名、副会長 3 名) 【監事】定数 2 名
顧 問	2名
評 議 員	定数 30 名
事 務 局	法人本部(尾崎町 1-18-15) 西鳥取・下荘地域包括支援センター(箱作 3515-7)

(2) 役員及び顧問名簿

【役員定数】 理事 17名 監事 2名

【任 期】 平成31年4月1日から令和3年度初回の定時評議員会まで 令和3年3月31日時点

役 職	氏 名	選出母体	備 考
会 長	つの 築野 よしてる 由照	桃の木台校区福祉委員会	
第1副会長	まえだ あつこ 前田 厚子	民生児童委員協議会	
第2副会長	たなか ちよこ 田中 千余子	阪南市介護者(家族)の会	
第3副会長	とぐち ひるゆき 戸口 博行	阪南市自治会連合会	
理 事	おおや ひろふみ 大宅 博文	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会	
理 事	こすげ ひろお 小菅 弘夫	上荘校区福祉委員会	
理 事	ほそぎ みき 細木 美紀	東鳥取校区波太地区福祉委員会	
理 事	うきた あきら 浮田 明	尾崎校区尾崎地区福祉委員会	
理 事	いしくら おさむ 石倉 修	舞校区福祉委員会	
理 事	おくの ひでとし 奥野 英俊	阪南市商工会	
理 事	みつい ともこ 三井 智子	阪南市社会福祉協議会ボランティアセンター	
理 事	たに じゅんじ 谷 淳司	阪南市社会福祉施設連絡会	
理 事	たけなか よしのぶ 竹中 義信	市民活動団体 特定非営利活動法人シニアベンチャークラブ	
理 事	まつわか りょうすけ 松若 良介	泉佐野泉南医師会	
理 事	しんじ こうじ 宍道 厚治	阪南市教育委員会 生涯学習部長	
理 事	ほんだ かずたか 本田 和隆	学識経験者 地域福祉推進計画作業委員長	
理 事	おかだ ひさなが 岡田 久長	学識経験者 事務局長	
監 事	いじり けんじ 井尻 健治	税理士	
監 事	おけたに けんじ 桶谷 建二	社会福祉法人有誠会下出作業所施設長	
顧 問	みなみ たけお 南 武雄	阪南市社会福祉協議会 前会長	
顧 問	みずの けんじ 水野 謙二	阪南市社会福祉協議会 元会長	

(3) 評議員会名簿

【評議員定数】 25 名以上 30 名以内

【任 期】 平成 29 年 4 月 1 日から令和 2 年に終了する会計年度のうち最終に関する提示評議員会の終結の時まで

(令和3年 3 月 31 日時点)

選出基準	組織構成会員団体名	評議員氏名
住民代表的性格のつよいもの	阪南市自治会連合会	山本 孝二
	阪南市連合婦人会	吉田 美智子
	阪南市青少年指導員協議会	松岡 英次
	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会	南 敏晴
	上荘校区福祉委員会	山本 勇
	朝日校区朝日地区福祉委員会	石丸 征司
	朝日校区山中溪地区福祉委員会	三澤 統治
	尾崎校区尾崎地区福祉委員会	岡崎 邦夫
	尾崎校区福島地区福祉委員会	芝野 重廣
	西鳥取校区福祉委員会	古川 珠紀
	舞校区福祉委員会	今井 晴美
	下荘校区下荘地区福祉委員会	肥田 茂夫
	下荘校区箱作地区福祉委員会	斉藤 和夫
福祉専門機関・団体的性格のつよいもの	阪南市民生委員児童委員協議会	北野 和子
	特別養護老人ホーム玉田山荘	山田 邦夫
	特別養護老人ホーム玉井泉陽園	新田 升啓
	社会福祉法人光生会大阪ピープルハウス阪南	川口 和美
	特定非営利活動法人くらしのたすけあい えぶろんの会	村上 英司
	社会医療法人生長会 阪南市民病院	村中 秀樹
	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 さつき園・まつのき園	打越 寛子
	社会福祉法人阪南福社会しいの実こども園	山野 守彦
	阪南市役所生涯学習部長	伊瀬 徹
	阪南市更生保護女性会	木村 厚子
当事者団体的性格のつよいもの	一般社団法人やまなみ福社会生活介護事業所きづな	南 久美子
	阪南市老人クラブ連合会	谷下 宗一
	阪南市介護者（家族）の会	池田 昌子
関連分野・団体	阪南市歯科医師会	安田 久史
	泉南薬剤師会	八田 守也
	阪南市人権協会	中井 孝幸
その他学識	阪南市議会	二神 勝

(4)組織構成会員

所 属 領 域	番 号	団 体 名
〈領域Ⅰ〉 住民代表的性格のつよいもの	1	阪南市自治会連合会
	2	阪南市連合婦人会
	3	阪南市商工会
	4	阪南市青少年指導員協議会
	5	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会
	6	上荘校区福祉委員会
	7	朝日校区朝日地区福祉委員会
	8	東鳥取校区波太地区福祉委員会
	9	朝日校区山中溪地区福祉委員会
	10	尾崎校区尾崎地区福祉委員会
	11	尾崎校区福島地区福祉委員会
	12	西鳥取校区福祉委員会
	13	舞校区福祉委員会
	14	下荘校区下荘地区福祉委員会
	15	下荘校区箱作地区福祉委員会
	16	桃の木台校区福祉委員会
〈領域Ⅱ〉 福祉専門機関・団体的性格のつよいもの	17	阪南市民生委員児童委員協議会
	18	社会福祉法人玉田山福祉会 特別養護老人ホーム玉田山荘
	19	社会福祉法人大泉会 特別養護老人ホーム玉井泉陽園
	20	社会福祉法人大泉会老人保健施設メデケアタマイ
	21	社会福祉法人光生会大阪ビーブルハウス阪南
	22	社会福祉法人友愛の里
	23	社会福祉法人野のはな
	24	社会福祉法人三秀會 海薔
	25	特定非営利活動法人くらしのたすけあい えぶろんの会
	26	特定非営利活動法人はあとの会
	27	有限会社大城介護サービス
	28	リボン介護サービス
	29	デイ介護サービスリブ
	30	グループホーム白馬
	31	社会福祉法人さくら
	32	グループホームはるすのお家・阪南
	33	医療法人なざさ会
	34	社会医療法人生長会 阪南市民病院
	35	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 阪南市立さつき園・まつのき園
	36	社会福祉法人有誠会下出作業所
	37	社会福祉法人舞福祉会 舞グリーンフレンズ
	38	社会福祉法人ばけっと福祉会 ワークセンターばけっと
	39	NPO法人ハートワークひだまり
	40	NPO法人いるか
	41	社会福祉法人根来学園 ワンワン認定こども園
	42	社会福祉法人阪南福祉会 しいの実こども園
	43	社会福祉法人任天会幼保連携型認定こども園桃の木森こども園
	44	特定非営利活動法人子どもNPOはらっぱ
	45	阪南市役所福祉部長
	46	あじさいサークル
	47	阪南支部保護司会
	48	阪南市更生保護女性会
	49	公益社団法人阪南市シルバー人材センター
	50	ケアショップ ハル
	51	社会福祉法人レーベندانクライフケア尾崎
	52	はいむケアサービス
	53	一般社団法人やまなみ福祉会 生活介護事業所 きずな
	54	阪南郷土探究クラブ
	55	株式会社Higashi
	56	リュウ鍼灸・整骨院
	57	医療法人藪下脳神経外科・内科
	58	特定非営利活動法人スウェル
	59	株式会社カラーサ
〈領域Ⅲ〉 当事者団体的性格のつよいもの	60	さつき國家族会
	61	阪南市視力障がい者福祉協会
	62	阪南市聴力障がい者協会
	63	阪南市精神障がい者協議会
	64	阪南市老人クラブ連合会
	65	阪南市介護者(家族)の会
	66	学校に行きたがらない子どもを持つ親の会フラワーズ
	67	あざみ会
〈領域Ⅳ〉 関連分野、団体	68	和泉学園
	69	泉佐野泉南医師会阪南支部
	70	阪南市歯科医師会
	71	泉南薬剤師会
	72	阪南市在宅保健師の会
	73	阪南市人権協会
〈領域Ⅴ〉 その他学識	74	阪南市議会

(5) 事務局体制

令和3年3月31日



正職員 8名

年度採用職員 23名 (うち2名産休等代替職員)
(無期転換職員含む)

合 計 31名
(事務局長を除く)

その他 1名 (派遣)

法人運営に係る会議の開催

【理事会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和2年 5月19日	1	第1号議案 令和元年度 事業報告(案)について 第2号議案 令和元年度 決算報告(案)について 第3号議案 令和元年度 監査結果の報告について 第4号議案 給与規程の一部改正及び一時金の支給について 第5号議案 新しい「ツナガリ」プロジェクトについて 第6号議案 欠員評議員等の推薦について 第7号議案 評議員選任・解任委員会の委員選任について
令和2年 7月21日	2	第1号議案 公民館の指定管理について 第2号議案 老人クラブ連合会事務局の受託について 第3号議案 地域包括支援センターの受託について 第4号議案 法人本部拠点車両の増備について 第5号議案 欠員の副会長1名の選任について
令和2年 8月18日	3	第1号議案 第4期校区(地区)ふくしのまちづくり計画について 第2号議案 平成2年度 共同募金運動について 第3号議案 第2回臨時評議員会の招集について 第4号議案 阪南市生活サポート商品券交付事業の受託について
令和2年 10月20日	4	第1号議案 令和2年度後半期事業計画について 第2号議案 平成2年度補正予算の編成について 第3号議案 令和3年度阪南市当初予算に対する要望について
令和2年 12月8日	5	第1号議案 令和2年度 上半期決算監査の報告について 第2号議案 新型コロナ対応手当一時金の支給について 第3号議案 令和2年度 第一次補正予算(案)について 第4号議案 地域包括支援センターの再受託体制について 第5号議案 令和2年度 第3回評議員会の開催について 第6号議案 地域歳末たすけあい運動について
令和3年 2月16日	6	第1号議案 次期評議員及び役員の選出団体について 第2号議案 公報発行規程の一部改正について 第3号議案 役職員等講師派遣及び講師料等に関する規程の制定について 第4号議案 就業規則及び非常勤職員就業規則の一部改正について 第5号議案 育児・介護休業規程の一部改正について 第6号議案 経理規程の一部改正について 第7号議案 日常生活自立支援事業保管物品等に関する取り扱い規定の一部改正について 第8号議案 令和2年度 第4回定時評議員会の開催について 第9号議案 大阪府福祉基金地域福祉振興助成金を活用した事業(ウイズコロナ、ポストコロナに対応した地域活動モデルの開発)の実施について 第10号議案 事業の効率化や財源確保等の工夫について 第11号議案 令和3年度当初予算編成の方向性について
令和3年 3月16日	7	第1号議案 日常生活自立支援事業利用料の基準改定について 第2号議案 広報編集委員の委嘱について 第3号議案 令和2年度 第二次補正予算(案)について 第4号議案 阪南市社会福祉協議会財政健全化の方針(案)について 第5号議案 令和3年度 事業計画(案)について 第6号議案 令和3年度 当初予算(案)について 第7号議案 令和2年度 第4回定時評議員会の開催について 第8号議案 評議員選任・解任委員会の開催について 第9号議案 役員等賠償責任保険契約締結について

【評議員会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和2年 6月18日	1	第1号議案 令和元年度 事業報告について 第2号議案 令和元年度 資金収支決算書について 第3号議案 令和元年度 決算監査報告について 第4号議案 給与規程の一部改正及び一時金の支給について 第5号議案 欠員理事3名について
令和2年 9月17日	2	第1号議案 地域包括支援センターの受託について 第2号議案 令和2年度 共同募金運動について 第3号議案 第4期校区(地区)ふくしのまちづくり計画について 第4号議案 法人本部拠点車両の増備について 第5号議案 各受託事業について
令和2年 12月21日 (議決の省略及び書面 による提案 事項の同意)	3	第1号議案 令和2年度 後半期事業計画について 第2号議案 令和2年度 上半期決算監査の報告について 第3号議案 新型コロナ対応手当一時金の支給について 第4号議案 令和2年度 第一次補正予算(案)について 第5号議案 地域包括支援センターの再受託体制について
令和3年 3月22日(議 決の省略及 び書面によ る提案事項 の同意)	4	第1号議案 広報発行規程の一部改正について 第2号議案 就業規則及び非常勤就業規則の一部改正について 第3号議案 育児・介護休業規程の一部改正について 第4号議案 経理規程の一部改正について 第5号議案 大阪府福祉基金地域福祉振興助成金を活用した事業(ウイズコロナ、ポストコロナに対応した地域活動モデルの開発)の実施について 第6号議案 令和2年度 第二次補正予算(案)について 第7号議案 阪南市社会福祉協議会財政健全化の方針(案)について 第8号議案 令和2年度 事業計画(案)について 第9号議案 令和2年度 当初予算(案)について

【評議員選任・解任委員会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和2年 5月25日	1	議長を選出、評議員の選任(4名)について

【監事監査の実施状況】

日 時		議案
令和2年 5月11日	1	令和元年度 監事監査
令和2年 11月6日	2	令和2年度 上半期監事監査

地域福祉推進に関する会議の開催①

(1) 会議概要

名 称	地域福祉推進連絡協議会
開催期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
会議の趣旨	阪南市地域福祉推進計画の策定や進捗管理をおこない、地域福祉推進に関わる公民それぞれの情報交換や意見交換をおこなう
構成員	公募市民、各種団体代表、校区福祉委員会、行政関係課、関係機関等
主担当課	社協、市役所市民福祉課
参 加	社協副会長3名、事務局長、地域担当職員

(2) 開催実績

日 時	名 称	主な内容
令和2年9月15日 (書面開催)	第1回阪南市 地域福祉推進 連絡協議会	・地域福祉推進計画について ・重層的支援体制整備について
令和2年11月9日 15:00～16:30	ふくしのまちづ くり研修会	・講演「人口減少社会の中での地域福祉とそのビジョンづくり」 講師：藤井 博志 先生 (関西学院大学教授・阪南市地域福祉推進連絡協議会会長) ・「ふくしのまちづくりビジョン」について

地域福祉推進に関する会議の開催②

(1) 会議概要

名 称	校区長・事務長・ボランティアコーディネーター会議
開催期間	令和2年5月8日～令和3年3月5日
会議の趣旨	校区福祉委員会の主要な役員である校区長・事務長・ボランティアコーディネーターを対象に、社協事業や校区福祉委員会活動に関する情報提供や意見交換をおこなう。
構成員	各校区福祉委員長、事務長、ボランティアコーディネーター 社協会長、副会長、理事、顧問、事務局
主担当課	社協
参 加	事務局長、地域担当職員

(2) 開催実績

日 時	主 な 内 容
令和2年5月8日	(1) 新型コロナウイルスへの対応について (2) 新しい「ツナガリ」プロジェクトについて (3) 令和2年度地域支え合い活動協力金(社協会員募集)の在り方について (4) 令和2年度地域介護予防事業の一部開催中止について
令和2年7月10日	(1) コロナとうまく付き合うための 地域ふくし活動で・び・きについて (2) 令和2年度地域支え合い活動協力金(社協会員募集)について (3) 令和2年度地域介護予防事業について
令和2年9月11日	(1) 令和2年度(第74回)共同募金運動実施について (2) 令和3年度阪南市当初予算への要望について (3) 第4期校区(地区)ふくしのまちづくり計画について
令和2年11月13日	(1) 令和2年度(第74回)共同募金運動実施について (2) きらめきアート作品展について
令和3年1月8日	(1) 小地域ネットワーク推進事業補助金の扱いについて (2) 令和2年度共同募金・歳末たすけあい運動について (3) 令和3年度介護予防事業の方向性について (4) ガイドライン「コロナとうまく付き合うための地域福祉活動でびき」の見直しについて
令和3年3月5日	(1) 阪南市社会福祉協議会 財政健全化の方針(案) (2) 令和3年度地域支え合い活動協力金の在り方について (3) 次期評議員及び役員の地区選出について (4) 小地域ネットワーク推進事業補助金の扱いについて (5) 令和3年度介護予防事業について (6) 第四期ふくしのまちづくりビジョンについて (7) 各種年次報告提出の依頼について

阪南市等が主催する会議への参加

(1) 会議概要

名 称		所 管	担当
全 般	阪南市赤十字奉仕団	日本赤十字社大阪府支部（市 危機管理課）	会長・副会長
	地域医療を共に創る会	市健康増進課	会長・副会長
	阪南市自治基本条例推進委員	市地域まちづくり支援課	田中副会長・猪俣
	阪南市防災会議	市危機管理課	会長
	阪南市人権協会	阪南市人権推進課	会長
	阪南市人権擁護に関する審議会	阪南市人権推進課	前田副会長
	阪南市シルバー人材センター 理事	シルバー人材センター	会長
	大阪府共同募金会 評議員	大阪府共同募金会	会長
	阪南地区募金会 会長	大阪府共同募金会	会長
	阪南市社会教育委員会会議	生涯学習推進室	会長
	公民館運営審議会	生涯学習推進室	岡田
	阪南市子ども読書活動推進協議会	市立図書館	佐藤
	市町村社協連合会（会長・事務局長会）	大阪府社協	会長・岡田
	市町村社協連合会（泉州ブロック会議）	大阪府社協	佐藤
	阪南市市民協働推進委員会	地域まちづくり支援課	坂上
高 齢	阪南市介護保険運営協議会	介護保険課	会長・熊抱
	阪南市地域密着型サービス運営委員会		
	阪南市地域包括支援センター運営協議会		
	阪南市医療と介護の多職種連携会議	介護保険課	坂上
	介護人材確保連絡会議	大阪府社協	岡田・猪俣
障 が い	阪南市障害者施策推進協議会	市民福祉課	岡田
	阪南市岬町自立支援協議会	市民福祉課	坂上
児 童	阪南市子ども子育て会議	子ども家庭課	佐藤
	阪南市要保護児童対策協議会代表委員	子ども家庭課	岡田
	泉鳥取高校学校協議会	泉鳥取高校	坂上

その他の会議・研修等

人権研修

日 時	名 称 (主催/場所)	参加者
令和2年7月21日	阪南市ヒューマンライツセミナー 映画「徘徊～ママリン87歳の夏」 (阪南市、人権協会他/サラダホール)	岡
令和2年7月31日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「LGBTと人権～いろんな性のあり方」 (阪南市、人権協会他/サラダホール)	永井、寺井、 大塚
令和2年8月21日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「結婚差別(部落問題)について」 (阪南市、人権協会他/サラダホール)	中 止
令和2年8月31日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「カラーユニバーサルデザイン(色覚異常等)」 (阪南市、人権協会他/サラダホール)	局長、田中、 船津

対外的な視察受け入れ・事例発表等

【視察受け入れ】

日 時	名 称	対応
令和2年6月～	地域福祉てびきについてヒアリング ①岡山県玉野市社協 ②岐阜県関市社協 ③長崎県対馬市社協 ④三重県いなべ市 ⑤埼玉県八潮市社協 ⑥北海道民児協連絡会 ⑦長野県塩尻市社協 ⑧埼玉県久喜市議会 ⑨兵庫県三木市社協 ほかに多数	坂上
7月3日	東広島市社協 泉南学寮ボランティアの取り組みについてヒアリング	猪俣
12月3日	大阪ええまちプロジェクト(大阪府委託)より依頼 「阪南市の地域福祉推進について」ヒアリング	猪俣、(市)

【事例報告等】

日 時	名 称 (主催/場所)	登壇者
令和2年6月29日	オンライン会議(大阪府社協) 事例報告	猪俣
令和2年7月11日	コミュニティエンパワメントオフィス FEELDO オンライン情報交換 講師「地域福祉てびきについて」	猪俣、坂上、佐藤
10月23日	大阪府より依頼 ZOOM 「大阪ええまちプロジェクト行政職員向け研修会」	猪俣

11月4日	大阪市立大学より依頼 ZOOM 「ソーシャルイノベーター養成講座」	猪俣
11月18日	和歌山県庁より依頼 和歌山県民文化センター 「地域共生社会推進研修会」	猪俣
11月20日	広島県社協より依頼 広島県健康福祉センター 「市町村社協中堅職員研修」	猪俣
12月9日	新潟県社協 「地域共生の取り組みについて」ZOOM	猪俣
12月19日	近畿地域福祉学会 「コロナ禍での地域共生の取り組み」 ZOOM	猪俣
2月4日	泉南市人権推進課 市民講座 「子ども福祉委員」ZOOM	猪俣
3月3日	広島県社協福祉教育推進セミナー 「子ども福祉委員の 取り組み」ZOOM	猪俣

【メディア掲載】

日時	名称	対応
令和2年4月1日	全社協「ボランティア情報」特集 子ども福祉委員の取り組み	猪俣、吉川、佐藤
5月1日	大阪ええまちプロジェクト 府内外の活動者向けのWEBにインタビュー記事掲載	猪俣
5月25日	福祉新聞（全国紙）「ツナガリ」プロジェクトについて	猪俣、坂上、佐藤
5月30日	「未来の豊かな”つながり”のための全国アクション」WEB 「ツナガリ」プロジェクトについて （全社協他）	猪俣、坂上、佐藤
7月25日	公明新聞（全国紙）掲載 つながりプロジェクトについて	猪俣
8月22日	共同通信社配信 「新たなつながりプロジェクト」 神戸新聞、信濃毎日新聞、他4紙掲載	猪俣、船津
11月26日	テレビ大阪「やさしいニュース」放映 泉南学寮グリーンサポーターの取り組み	猪俣
12月24日	読売新聞 子ども福祉委員について(コロナ急増で掲載されず)	猪俣 桃の木台校区
令和3年1月	全国社会福祉協議会 『月刊福祉』2021年1月号(12/7刊行)巻頭カラー 特集ページ“グラフ21 コロナ禍における福祉の今”	猪俣、船津
2月	ふくしと教育 大学図書出版「特集 コロナ禍でのふくしの挑戦と福祉教育」	猪俣
3月3日	NHKニュースほっと関西 コロナ禍での地域活動の取り組み ※2下旬～3月上旬 放映予定	猪俣 舞校区

地域支え合い活動協力金事業（法人運営事業）

（１）事業概要

広く阪南市民に社協事業、地域福祉活動の理解を広め、協力金（会費）の拠出、会員への参加をもって地域福祉に参画していただく事業で、地域での福祉事業を進める際の貴重な財源となっています。なお、多くの住民・団体・事業者が会員として参加していることによって社協組織の公共性が保たれることになり、社協にとっては組織の性格上、最大限に重きを置く事業です。

○推進期間

令和２年８月１日～１１月３０日（※実施期間は通年）

○配分割合

実績の６割・・・校区（地区）福祉委員会

実績の４割・・・社会福祉協議会

（２）実施内容・実績

区 分	金 額	件 数	実績額
組織構成会員	6,000	74	426,000（昨年度：420,000）
個人 A	500	2,954	1,477,000（昨年度：1,648,000）
個人 B	1,000	720	720,000（昨年度：777,000）
個人 C	2,000	262	524,000（昨年度：544,000）
個人 D	5,000	17	85,000（昨年度：75,000）
個人 E	10,000	9	90,000（昨年度：110,000）
法人 A	5,000	28	140,000（昨年度：150,000）
法人 B	10,000	22	220,000（昨年度：270,000）
協力金	—	—	722,900（昨年度：661,400）
計			4,404,900（昨年度：4,655,400）

※「会員に関する規程」第４条３項１号と２号に掲げる会員からは会費を徴収していません。

（３）成果・評価

コロナ禍でしたが、校区（地区）福祉委員会や自治会、市民の協力を得て実施することができました。組織構成会員も昨年度より１団体増えました。

（４）課題・今後の方針

いかに社協や福祉委員会活動について理解をいただき、協力をいただけるかが課題です。しっかりと日々の活動や事業のPRをする必要があります。

今年度は、組織構成会員に７４団体が構成員になっていただきましたが、今後は１００団体を目標に施設連絡会や市民活動団体等へ声掛けをしてまいります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
4,404,900 円	会費収入	昭和 54 年度

広報誌発行及びホームページ維持管理事業（法人運営事業）

（１）事業概要

社会福祉協議会事業や校区福祉委員会活動、くらしに役立つ情報、また地域福祉活動の大きな担い手であるボランティア活動に関する情報を広報誌、ホームページにより発信した。

（２）実施内容・実績

業務	実績（内容）
社協広報誌「ふくしはんなん」の発行	年４回発行 （第 143 号、第 144 号、第 145 号、第 146 号） 部数 23,900 部（全戸配布）
ふくしはんなん編集会議の開催	発行ごとに 2 回 年 8 回
ホームページの利用	利用者：19,488 人 延べ閲覧：144,918 ページ ブログ更新：179 記事 （昨年度）利用者：9,779 人 延べ閲覧：83,815 ページ ブログ更新：36 記事
ホームページ維持管理（オフィス游 江川氏との打ち合わせ）	4 月～3 月 毎月 1 回 12 回 ※今年度は新型コロナウイルス感染予防としてメールで実施

（３）成果・評価

- ・社協広報紙「ふくしはんなん」の内容を編集委員と共に検討することで、市民に見やすくわかりやすい広報紙を心掛け「見える社協づくり」を目指した。そのことで、「ふくしはんなん」が見やすくなったとの声を多数いただく。
- ・前年度に引き続き、全 8 ページ、うち 4 ページを 2 色刷り、4 ページをカラー刷りし、より読みやすい紙面作りを目指した。制作から配布までの経費は、前年度と同額で執行した。
- ・図書館、子ども福祉委員、市民活動センター、ボランティアセンター、地域包括支援センターなどの記事を掲載することで、幅広い年齢層にも対応した情報を伝えることができています。
- ・ホームページ・ブログを活用し取組みの発信を行った。今年度より「市民活動センター」の運営を社協が受託したことで、助成金情報などのブログを発信し、更新回数は格段に上昇した。ホームページ・ブログの定期的な更新で、「見える社協づくり」に向けた拡充に取り組むことができた。
- ・緊急事態宣言による休館情報や新型コロナウイルスに伴う特例貸付の案内など有効な情報発信の活用が出来た。

（４）課題・今後の方針

- ・幅広い世代に、より見やすく、よりわかりやすく社協事業を伝えるため、ウェブページの再構築を検討中。また身近な地域の情報を掲載し、地域密着の福祉意識が芽生えるきっかけづくりをしていく。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
1,903,825 円	経常経費補助金収入等	昭和 59 年 12 月

ボランティアセンター事業

(1) 事業概要

地域における多様な福祉問題に対応するため、ボランティアセンターの運営強化や若年層や地域活動者への福祉教育、新規活動者の開拓を目指します。

また、専門性のあるボランティア養成の場を活用し、必要に応じたボランティア活動を支援すると共に、校区（地区）福祉委員会等の地域に根ざした活動団体と NPO、市民活動団体等が力を合わせ協働できる地域福祉活動を展開します。

(2) 実施内容・実績

- ◇ボランティア登録者数-----125 名（令和元年度 113 名）
- ◇ボランティア相談件-----55 件（令和元年度 60 件）
- ◇ボランティアコーディネーター件数-----11 件（令和元年度 11 件）
- ◇運営委員会の開催-----2 回
- ◇ボランティアコーディネーター連絡会の開催-----2 回 延べ 77 名参加
- ◇ボランティアグループ連絡会-----参加団体：12 グループ
- ◇ボランティアグループ登録-----36 グループ、特技ボランティア 6 名、サポートボランティア 11 団体
(令和元年度 34 グループ + 特技ボランティア 6 名 + サポートボランティア 11 団体)

(3) 成果・評価

- ・コーディネーター連絡会、グループ連絡会では形式上の会議ではなく、積極的な情報交換が行われコロナ禍での各校区の新たな取り組みや催しの内容、課題等を共有しました。

(4) 課題・今後の方針

- ・ボランティアの担い手をいかに増やしていくかが課題になっています。市民活動センターとの協働事業をとoshi、ボランティア活動をする人の裾野を広げていけたらと思います。また、災害時に備え、ボランティアセンター運営委員会の委員を中心に防災学習を開催していきたいと思います。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
196,158 円	研修参加費、印刷機手数料、物品販売、 プルタブ収集、法人繰入金	昭和 58 年度

市民活動センター運営事業（市受託事業）

（１）事業概要

阪南市から委託を受け実施しています。市民公益活動団体等の支援相談や情報収集発信、啓発、交流、活動促進のための場所等の提供や、多様な主体間をつなぐコーディネートをおこないます。

（２）実施内容・実績

多様な市民活動を連携する業務

- ・市民活動センターサポート委員会の設置 年 6 回開催
 - ・井戸端会議(語り場)の運営 7 月～3 月まで毎月 1 回開催
 - ・ボランティア★ひろばの開催 10 月 14 日(水)参加者 12 名
 - ・ボランティア・市民活動交流サロン 6 月 30 日(火) 参加者 21 名
 - ・ボランティア・市民活動フェスティバル実行委員会の開催 11 月、1 月
- ※フェスティバルは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

市民活動に関する専従コーディネーターの配置・夢プラザの運営等に関する業務

- ・専門相談件数 405 件、アウトリーチ 37 件、コーディネート 23 件
- ・貸し部屋利用者 1,753 人 来館者数 430 人

市民活動の情報収集・情報発信

- ・夢プラザだよりの発行 6 月号、10 月号、1 月号、3 月号 （各号 300 部発行）
- ・助成金情報発信 （ホームページや掲示板にて 116 件）
- ・センター事業や市民公益活動団体情報等の発信（Twitter28 件、ブログ 25 件）

人材の育成業務

- ・チラシづくり講座の開催 9 月 27 日(日)、10 月 4 日(日)、10 月 18 日(日) 延べ参加者 42 名
- ・資金調達まるわかり講座の開催 11 月 22 日(日) 参加者 13 名
- ・まちづくり市民活動入門講座 7 月 17 日(金) 参加者 9 名
- ・はんなり共創事業プランコンペの実施（プラン数 一般 4 件／小中高生 19 件 昨年度：4 件/0 件）
最終審査会：12 月 20 日(日)

（３）成果・評価

- ・週 1 日から週 5 日へ相談日を拡充したことにより、昨年度を大きく上回る相談があり、対応することができました。また、アウトリーチによる相談をおこなうことで“身近”で“便利”な市民活動センターを実現できました。利用者からも「市民活動センターの部屋に入りやすい雰囲気嬉しい」「現地に出向いてくれて嬉しい」といった声もいただきました。
- ・多様な団体が学び交流できる事業を数多く実施したことで、地縁組織とテーマ型組織が協働した新たな活動が生まれてきています。
- ・はんなり共創事業プランコンペでは、昨年度を大きく上回る中高校生部門からの申し込みもあり、若者の参画によるまちづくりを進めることができました。

（４）課題・今後の方針

- ・アフターコロナの活動をセンターとして応援するため、ZOOM や LINE の活用講座やできるだけ対面せず団体同士がつながれるイベントを企画していきます。
- ・はんなり共創事業プランコンペの、これまでの受賞者と新たな受賞者の伴走型支援を引き続き進めてまいります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
4,146,000 円	市受託金	令和 2 年度

小地域ネットワーク推進事業

(1) 事業概要

阪南市より委託を受け事業実施しています。

孤立化を防ぎ、ともに支え合う活動として、住民交流、生きがい、健康づくり、見守りネットワークづくりなどの事業を、12校区の校区福祉委員会や各種団体の協働のもと実施しています。

(2) 実施内容・実績

①地区担当職員による福祉委員会支援

職員による地区担当制をとり、福祉委員会の組織運営や活動運営に参画し、運営への助言や関係機関との連絡調整、事務支援などを行いました。あわせて、新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域の実態にあった役員会の在り方、活動の工夫を助言しました。

(委員会) 概ね年2～3回程度×12校区 (役員会) 概ね年10回程度×12校区

(活動への参加) 随時参加し、専門的視点で活動のあり方、福祉課題等を把握する

②ワーカーの資質向上・情報共有

地区担当と事務局長が参加する「地域支援担当職員会議」を年1回おこないました。

(内容) 地域支援の技術や方法の共有・地域の活動情報の交換・テーマ学習など

③校区(地区)12校区(地区)福祉委員会概況

校区(地区)名	委員数	ボランティア数	事務局拠点
東鳥取	60	12	東鳥取地区福祉委員会事務局
上 荘	47	0	上荘校区福祉委員会事務局
朝 日	17	18	なし
波 太	7	35	なし
山中溪	51	0	なし
尾 崎	48	8	阪南市地域交流館内
福 島	31	12	尾崎小学校旧保健室
西鳥取	65	1	なし
舞	70	32	あたごプラザ
下 荘	53	25	なし
箱 作	45	23	なし
桃の木台	31	15	なし
合 計	525	181	

(※ボランティア数は福祉委員との重複を除いた実数を集計)

④校区(地区)12校区(地区)福祉委員会活動実績(介護予防活動除く)

地域の各種団体代表や趣旨賛同者等で構成される福祉委員やボランティアが中心となり、以下の活動を実施しました。

活動名	実施回数	延べ参加者数	延べボランティア数
いきいき健康教室	8 回	128 人	48 人
ミニデイサービス	0 回	0 人	0 人
ひとり暮らし高齢者食事会 (配食活動も含む)	8 回	242 人	92 人
世代間交流	17 回	811 人	143 人
子育てサロン	15 回	60 人	83 人
まちなかサロン(※)	18 回	420 人	127 人
まちなかカフェ(※)	118 回	3,113 人	817 人
地域美化活動	58 回	30 人	511 人
個別訪問活動	220 回	2,424 人	653 人
個別電話活動	791 回	1,820 人	761 人
講座・勉強会	19 回	424 人	122 人
茶話会	40 回	728 人	308 人
その他	160 回	1,124 人	1,339 人
合 計	1,472 回	11,324 人	5,004 人

(※) まちなかサロンカフェは福祉委員会が主催するもののみ。それ以外含む集計は以下に掲載。

⑤まちなかサロン・カフェの推進

i) まちなかサロンカフェの実施

職員が、新規サロンカフェ立ち上げ相談や運営支援・情報提供などを行っています。

【実施状況】

年度	校区(地区)数	開催か所数	開催回数	年間延べ参加者
令和2年度	12	40	374	7,883
(前年度)	(12)	(41)	(999)	(24,844)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のためほとんどの地区がサロン・カフェの実施を見送りました。

ii) まちなかサロン・まちなかカフェネットワーク連絡会の開催・運営

まちなかサロン・カフェを運営する担い手同士が相互につながり交流・研鑽することを目的に社会福祉協議会が事務局となり、ネットワーク連絡会を2日間に分けて開催しました。

・加盟団体 31 団体 (福祉委員会や自治会等)

《令和2年度連絡会》 西圏域 令和2年12月15日(火) 10:00～11:00 8名参加

東圏域 令和2年12月16日(水) 10:00～11:00 13名参加

⑥活動者・関係者の情報交換や研修

i) 校区長・事務長・コーディネーター会議の開催

年6回、12校区(地区)の委員長、事務長、ボランティアコーディネーターを参集し連絡会議の開催。課題の共有や情報提供などおこないました。

(3) 成果・評価

【活動の充実】

コロナ禍においても、食事会を配食活動に切り替えたり、フェイスシールドを手作りするなど各校区(地区)の実態に合った方法で進める小地域ネットワーク活動をしっかりと支援することができました。

また、「新しい『つながり』プロジェクト」と連動し、できるだけ接触しない方法で、地域とのつながりの機会や生きがいをづくり、サロン・カフェのさらなる発展を進めることができました。

【行政・関係機関との連携】

地域活動再開に必要な消耗品・備品（マスク、消毒液）の情報を行政等と共有し、地域活動再開にむけた支援をおこないました。

また、地域支援の方向性を話し合う地域情報共有会議の実施、身近な地域での感染症予防学習会の企画など、行政や関係機関等との協働を昨年度に引き続き進めることができました。

(4) 課題・今後の方針

新型コロナウイルス感染拡大による地域での福祉課題が増えていることや、専門職側からの地域との協働の意向が強まっており、各地区担当職員の業務も増大しています。

現在の職員体制を維持充実しながら、コロナとうまく付き合いながら、“できること”を“できる方法”で、よりいっそうの小地域でのきめ細かい福祉活動の充実と、新たな福祉課題や困難課題を専門職と住民が受け止める困りごとキャッチの体制づくりを進めてまいります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
29,519,336 円	市小地域ネットワーク事業補助金	平成 10 年度

阪南市介護者(家族)の会支援事業（当事者組織支援事業）

（１）事業概要

介護に関して、同じ状況にある人同士が集まり、悩みの共有や課題解決に向けた学習等、情報発信をする当事者組織の組織化や運営支援を行う。

（２）実施内容・実績

- ・つどい（6～11月まで開催）
- ・介護者だより発行3回
- ・役員会
- ・他市町の総会等
- ・大阪府介護者（家族）の会活動
- ・はがきを活用した会員の状況確認

（３）成果・評価

- ・上記事業を通して、介護者の心のよりどころとなり精神面で支えることができました。
- ・泉州ブロックの会議や大阪府連絡会に出席することで、他市町村の介護者（家族）の会とのつながりができ、情報交換を行うことができました。
- ・会員やつどいの参加者へマスクを配布しました。
- ・つどいでは、マスクを着用し換気、給水時間を設けるなど感染症予防に努めました。また、地域包括支援センターの職員や医療ソーシャルワーカーが参加され、専門的な視点での助言をもらい、つながりも構築できました。
- ・マスターズカフェの運営支援や介護相談を出張開催することで、相談が増えました。

（４）課題・今後の方針

- ・看取り会員が増え「介護予防」を重点的に取り組まれる会も増えつつある中、本来の目的である「介護の悩みを持つ当事者同士が情報を共有し、励まし、助け合い解決していくこと」を意識して取り組む。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
50,000 円	赤い羽根共同募金配分金	昭和 62 年度

日常生活自立支援事業

(1) 事業概要

認知症、知的障がい、精神障がいなどがあることで、自身での意思決定などに不安がある方ご本人と契約を行い、権利を護る相談に対応します。また、関係機関と連携を図り、できる限り本人の力で住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、在宅福祉サービスの利用や日常的な金銭管理、大切な通帳等の保管を中心とした支援を行います。

(2) 実施内容・実績

- ・制度についての問い合わせ 新規相談対応
- ・契約、支援計画変更、契約終了手続き
- ・支援計画に基づいた生活費等の金融機関での入出金
- ・訪問、来所による生活費等の手渡し
- ・家賃、光熱費等の支払・振込対応
- ・利用者さんからの相談対応 関係機関との連絡調整
- ・市役所等での手続き書類作成のお手伝い
- ・通帳や証書の預かりサービス
- ・上記にかかる書類の作成及び整備
- ・大阪後見支援センターへの定期的な契約内容の報告

契約者の利用内容	R2 年度	R 元年度
福祉サービスの利用援助	59	59
日常の金銭管理	54	54
通帳、証書類他書類の保管	20	25

相談・支援件数	R2 年度		R 元年度	
	相談等	支援	相談等	支援
認知症高齢者	813	402	544	492
知的障がい者	1,111	639	796	630
精神障がい者	1,045	486	817	548
その他	8	0	6	0
合計	2,799	1,527	2,163	1,670

契約締結・終了件数	R2 年度		R 元年度	
	締結	終了	締結	終了
認知症高齢者	7	4	1	8
知的障がい者	2	4	6	6
精神障がい者	1	2	6	2
その他	0	0	0	0
合計	10	10	13	16

(3) 成果・評価

- ・利用者の相談に応じ、安心して生活を送るための支援を継続し行うことができました。
- ・利用者の状況に応じ、関係機関への引継ぎや親族への保管物品の返還を行いました。
- ・新規相談へ早速に対応し、待機者 0 名を継続することができました。

(4) 課題・今後の方針

- ・生活困窮者自立支援事業との連携し、利用者への支援内容の充実や支援が必要な方への事業のつながりが必要です。
- ・窓口対応、電話対応、訪問回数、金融機関での入出金対応など業務量が多く、相談に時間を要するため、専門員・生活支援員の支援体制の充実が求められます。
- ・新規相談が増加傾向にあり、相談者から緊急性を求められる中、優先順位をつけて対応していく必要があります。

事業費総額 (円)	財源	事業開始年度
9,478,875 円	市補助金、府社協受託金、利用料収入	平成 12 年度

福祉資金貸付事業

(1) 事業概要

「生活福祉資金貸付制度」は、低所得者や高齢者、障がい者の生活を経済的に支えるとともに、その在宅福祉及び社会参加の促進を図ることを目的とした貸付制度です。

この制度は、大阪府社会福祉協議会が実施主体となり、阪南市では本会が本市在住の住民を対象に窓口となって実施しています。

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等に対し、世帯単位でそれぞれの世帯の状況と必要に合わせた資金の貸付を行います。

また、本貸付制度では、資金の貸付による経済的な支援にあわせて、資金の種類によっては地域の民生委員が資金を借り受けた世帯の相談支援を行います。

生活困窮者自立支援制度の施行に伴って、総合支援資金と緊急小口資金の貸付にあたっては、生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業の利用を貸付の要件となり、連携が図られています。

(2) 実施内容・実績

- 貸付相談等の窓口対応
- 各種貸付制度のホームページ等での周知PR
- 生活困窮者自立支援機関等関係機関等と連携した支援体制の構築

【実績】

■ コロナウイルス感染症貸付申請等件数

*令和2年3月25日制度開始からの集計

対応内容	延べ相談	緊急小口申請	総合支援申請	延長貸付申請	再貸付申請
件数	3,781 件	530 件	425 件	270 件	207 件

■ 生活福祉資金等の申請件数

資金内容	福祉資金	緊急小口資金	総合支援資金	教育支援資金
申請件数	8 件	9 件	2 件	2 件
昨年度申請件数	6 件	14 件	2 件	7 件

(3) 成果・評価

- 昨年3月25日から開始されたコロナウイルス感染症特例貸付が今年度1年間を通じ申請者が途切れることがありませんでした。コロナウイルスの影響により、今まで貸付など必要がなかった多くの世帯が貸付を受けることになりました。多くの方が社協へ相談に来られ、生活困窮者自立支援機関や社会貢献事業を実施する社会福祉法人等の関係機関と連携した支援に努めました。

(4) 課題・今後の方針

- コロナウイルス感染症特例貸付の制度が再三変更しているため、申請者へ適宜必要な、正確な情報を伝えていく必要があります。
- 特例貸付の償還が困難な世帯や生活困窮に陥る世帯の把握に努め、状況に応じて他制度へ案内し、スムーズつながるよう市役所や社会貢献事業を実施する社会福祉法人等の関係機関との連携をより推進します。
- 相談者世帯のその後の状況把握に努めるため、世帯への継続した支援につながるような支援チームづくりを検討します。生活困窮自立支援機関を軸とした市役所や民生児童委員、社会貢献事業、コミュニティソーシャルワーカー等各種関係者及び機関と連携を進めます。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
16,648,119 円	府社協受託金	昭和 56 年 4 月

新型コロナウイルス対策特例貸付について（詳細）

【制度概要】

新型コロナによる減収や失業などによる生活困窮者への支援策として、令和2年3月25日より、市区町村社会福祉協議会が窓口となって特例貸付の申請を受け付けました。

	緊急小口資金	総合支援資金
貸付対象者	緊急かつ一時的な生計維持のための貸付が必要な世帯	収入の減少や失業等により生活に困窮し、 日常生活の維持が困難 となっている世帯
貸付上限	学校等の休業、個人事業主等 = 20万円上限 その他 = 10万円上限	月20万円 × 3か月 = 60万円上限 (※単身は月15万円上限)
据置期間	1年以内	1年以内
償還期限	2年以内	10年以内
貸付利子	無利子	無利子

【運用の経過】

当初、この制度は令和2年6月末に終了の予定でしたが、政府の方針により制度の延長や追加が頻繁になされ、現在は以下のような形態となり、最大で200万円を貸し付ける制度となっています。

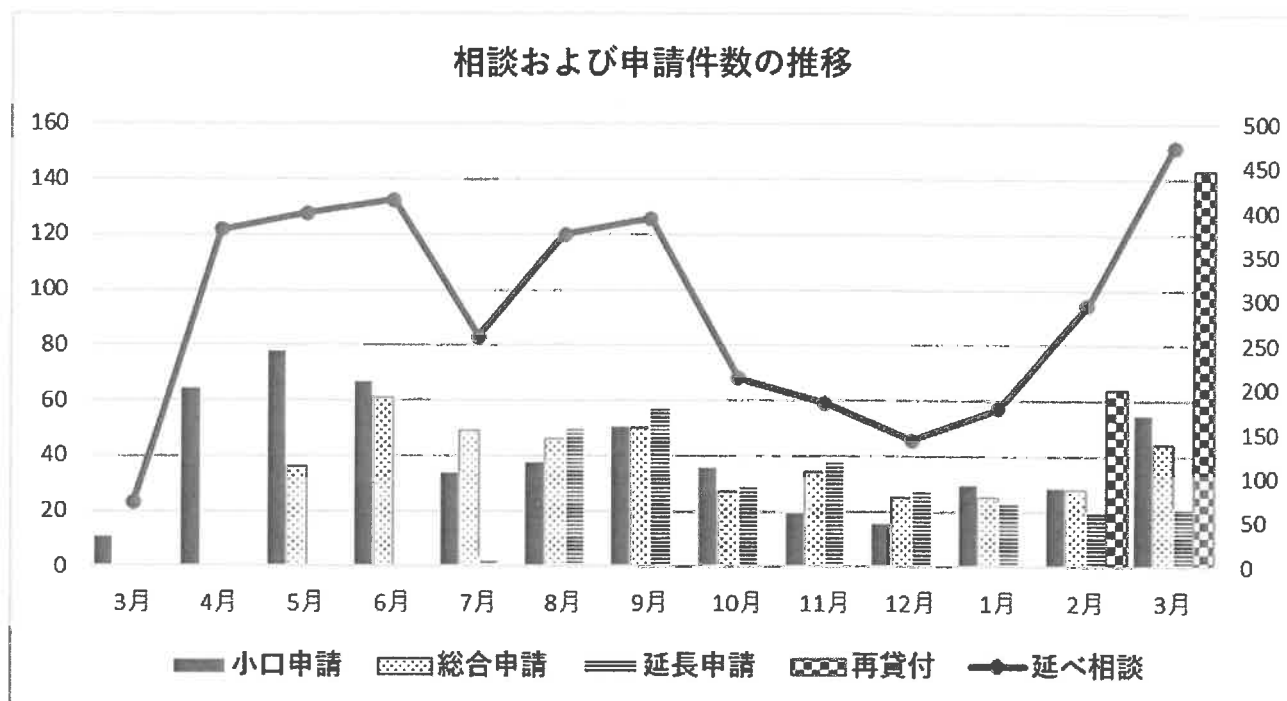
緊急小口資金	事業主等20万円 その他10万円	1回のみ
総合支援資金	複数世帯20万円× 単身15万円×	最大3か月
総合支援資金 (延長貸付)	〔なお減収が続く世帯に対して〕 複数世帯20万円× 単身15万円×	最大3か月
再貸付	〔上記すべて借り終えた世帯に〕 複数世帯20万円× 単身15万円×	最大3か月
制度変更の経過	●R2.3.25 制度開始 (6月末終了の予定) 「緊急小口・総合支援」 ●R2.7 制度延長 (9月末まで) 「延長貸付」の開始 ●R2.9 制度再延長 (12月末まで) ●R2.12 制度再々延長 (3月末で終了) 「再貸付」の開始 ●R3.3. 制度の再々々延長 (6月末まで)	

【貸付決定金額】

阪南市 545 件 2 億 9963 万 212 円 (令和3年2月3日時点決定実績)

【相談・申請実績】

令和2年3月25日から、令和3年3月までの実績推移は以下のとおりです。



	延べ相談	小口申請	総合申請	延長申請	再貸付
3月	72	11			
4月	380	65			
5月	399	78	36		
6月	414	67	61		
7月	260	34	49	3	
8月	375	38	46	50	
9月	393	51	50	57	
10月	213	36	27	29	
11月	185	20	34	39	
12月	143	16	25	28	
1月	178	30	25	23	
2月	295	29	28	20	64
3月	474	55	44	21	143
計	3781	530	425	270	207

※令和2年3月は3月25日からの7日間です。

※申請書の配布件数なので、上記府社協決定実績とは異なります。

地域力強化推進事業

(1) 事業概要

厚生労働省のモデル事業を阪南市が受け、平成 29 年度 10 月より本会が受託しました。

地域住民や地域の多様な主体が地域生活課題を「我が事」としてとらえて、主体的に参画し解決していく仕組みづくりを進めます。

(2) 実施内容

①福祉を文化にプロジェクト

- ・市民に向けての学習（地域活動再開に向けた感染対策学習など）
- ・共生の居場所づくり（多世代交流と福祉学習）「ボッチャ楽しも会」9 回 地域出張ボッチャ 1 回
きらめきアート展 1 回
- ・泉南学寮(少年院)のボランティア組織化とマッチング 院内活動 4 回、地域活動 5 回

②子ども福祉委員の創設

4 校/65 名 貝掛中：12 名、鳥取東中：13 名、飯の峯中：22 名、下荘小：18 名

地域の困りごと解決や地域活動の実施 コロナ禍での手紙活動 3 件

- ・子ども福祉委員 PR 動画作成 3 月

③子どもの居場所プロジェクト

- ・地域ぐるみで子どもを支える支援（学習支援、食事支援等）
- ・子どもの居場所に関する情報交換会（※3 月予定も、コロナのため中止）

④多世代交流サロン

- ・共生型サロンきらきら、ライフきらきら運営支援
- ・大阪市立大学と ICT を使ったサロン活性化のプロジェクト始動（ZOOM 協議実施）

⑤地域福祉拠点づくり

- ・まちなかほっこり相談の設置・拡大（市内 13 か所）
- ・山中溪分校活用に向けた市民活動支援

⑥農福連携による地域活性化

- ・自然田での福祉農園の整備、実施への打ち合わせ

(3) 成果・評価

コロナ禍においても、手紙での交流などで「子ども福祉委員」活動が工夫のうえ実施できました。

泉南学寮の取り組み屋外活動に限り実施し、孤立防止のためにつながり活動を継続しました。大阪市立大学など新たな機関との連携、農園活動の構築など、新規の活動展開も進みました。

(4) 課題・今後の方針

次年度は生活支援体制整備事業と統合しますが、この事業で進めてきた多世代・多様な担い手・当事者の「参加」の視点をしっかりと継続する必要があります。また小中学生だけでなく、中高大学生なども含めた若い世代への取り組みをさらに拡大させていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
2,969,999 円	市受託金、助成金	平成 29 年度(10 月)

きらめきアート作品展（当事者組織支援事業）

（１）事業概要

令和元年度に「シニア・障がい者いきいき創作展」から名称を改め、様々な世代の方々が、障がいの有無・年齢・性別も関係なく、作品の展示発表やイベントを通じて、特技を生かす、キラキラ活躍できる、新たなチャレンジができることにより『誰でも特技を活かして輝ける場』を目的とします。

（２）実施内容・実績

きらめきアート作品展

開催場所：地域交流館 2 階 3 階

開催期間：2020 年 12 月 1 日（火）～12 月 6 日（日）9:00～17:00

来場者数：80 名（受付票記入者数）

出展者数（個人・事業所）：26 名・団体

令和 2 年度 広報「ふくしはんなん」へ事業紹介の掲載（1 回）

準備・片づけは、各校区（地区）福祉委員会、泉南学寮グリーンサポーターへ協力依頼しました。

（３）成果・評価

参加者の声

- ・素敵な作品でした。元気が出ます。また利用者様・患者様のために勉学に努めたいと思いました。
- ・もっと大々的に作品展として展示してください。すばらしい作品でした。
- ・作品の色使いが明るく作者の前向きで希望に満ち溢れた内面の豊かさを感じます。
もっと多くの団体にアピール、出展を！

（４）課題・今後の方針

新型コロナウイルス感染症対策として、

- ・入場受付票にて氏名・連絡先・来館日時・体温・体調を記入。
- ・常に入り口を開放し、換気する。
- ・密を避け、時間を区切って搬入・搬出をおこなう。

に取り組んだが、入場受付票へ記入されない入場者が大半であったため入場者を把握する方法が必要です。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
0 円		平成 4 年度

福祉農園 事業

(1) 事業概要

社協が有する田畑で、高齢者や障がい者（児）、地域住民、支援者が農園での共同作業および社会参加を通じて、互いにやりがいや生きがいを高め、相互理解および親睦、健康増進を図る活動を展開します。

(2) 実施内容・実績

住民が主体となった農園運営

社協役員や地域住民が中心となって整地、苗植え活動を実施しました。

11月13日～3月31日

<苗>

じゃがいも、玉ねぎ、はっさく、レモン、ゆず、ブルーベリー、小梅、オリーブ 等

多様な主体との協働

- ・泉南学寮グリーンサポーターや市役所、包括支援センターと協働した笹根取り活動

2月15日(月) 13時～15時40分

<参加>

生徒9名、学寮職員9名、ボランティア6名、東包括職員2名、市役所職員1名、社協職員1名

2月24日(水)の13時～14時30分

<参加>

生徒9名、学寮職員7名、ボランティア5名、東包括職員3名、社協職員1名

(3) 成果・評価

- ・社協に寄贈いただいた農地を整備し、地域住民が主体となった農園活動を展開することができました。
- ・泉南学寮グリーンサポーターや地域包括支援センター等の多様な団体や専門職と連携、協働し農園を運営することで、地域の方や専門職にも農園活動のことを知ってもらうことができました。また、学寮生のボランティア意欲の喚起につなげることもできました。
- ・市民の方お一人と農園の利用契約を交わし、農園の一部を活用いただくことになりました。

(4) 課題・今後の方針

- ・新型コロナウイルスの感染は一向に終息の兆しがなく、令和3年度は三密を避けた方法での新たなツナガリや介護予防が求められます。三密を避ける地域活動の一つとして屋外での農園活動があげられることから、農園活動に様々な年代の方が参画・交流し、役割のある活動の場づくりを進めることで、農園での活動を通して多様な主体が「ツナガリ」農園での経験から就労支援や地域での他のボランティア活動へ「ツナゲル」ことができると考えます。
- ・令和3年度は大阪府からの助成金を活用し、活動をさらに推進していきたいと思います。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
1,119,053 円	自主財源	令和2年度

生活困窮者自立支援事業

(1) 事業概要

全国の福祉事務所設置自治体が実施主体となって、官民協働による地域の支援体制を構築し、自立相談支援事業、住居確保給付金の支給、就労準備支援事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業その他生活困窮者の自立の促進に関し包括的な事業を実施します。

自立相談支援事業は、生活困窮者からの相談に早期かつ包括的に応ずる相談窓口となります。ここでは、生活困窮者の抱えている課題を適切に評価・分析（アセスメント）し、その課題を踏まえた「自立支援計画」を作成するなどの支援を行います。また、関係機関との連絡調整や支援の実施状況の確認なども行います。

なお、自立相談支援事業の実施、住居確保給付金の支給については、福祉事務所設置自治体が必ず実施しなければならない必須事業として位置付けられている一方、その他の事業については、地域の実情に応じて実施する任意事業とされています。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 相談者の課題を把握し、支援計画を作成し、計画に基づいた支援を実施
- 市役所生活支援課、市民福祉課等との支援調整会議を週 1 回実施
- 関係機関との連携

【実績】

	新規相談件数	申込件数	住居確保給付金申請件数
令和 2 年度実績件数	631 件	460 件	19 件

【総合相談支援事業受託】

- 令和 2 年 6 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日、市受託事業を受け 1 名配置
- 生活困窮者自立支援事業と新型コロナウイルス感染症特例貸付の相談業務に従事

(3) 成果・評価

- 今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、住居確保給付金の制度が緩和され、申請者が増えたことにより、困窮に陥った世帯へ寄り添った支援を行うことができました。
また、今年度より事業が社協へ受託されたことにより、新型コロナウイルス特例貸付の申請を同じ窓口で受けることができました。貸付相談から途切れることなく生活困窮者の把握を行うことができました。相談を受けることにより、必要な関係機関との連携を図ることができました。

(4) 課題・今後の方針

- 新型コロナウイルス感染症の影響はこの先も続くと思われますが、緩和された住居確保給付金制度や特例貸付制度が終了される見込みであるため、相談者の今後の生活状況について支援が必要であると思われます。
- 特例貸付の償還状況などを見極め、生活状況を確認し、市役所生活支援課と連携しながら寄り添った相談支援を行ってまいります。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
18,351,800 円	市受託金	令和 2 年 4 月

生活支援・介護予防事業サービス協議体運営事業（市受託事業）

（１）事業概要

介護保険制度の改正に伴い配置された協議体の運営と第一層及び第二層生活支援コーディネーターを受託します。実施にあたっては、住民の主体性を尊重し、ニーズや資源の実態を把握して、協議のもと、地域に必要なサービスや住民相互の支え合い活動を創出するよう取り組みます。

（２）実施内容・実績

- ◆多様な団体同士が話し合う場（協議体）の運営
 - ・協議体 6 回、協議体事前会議 5 回
 - ・地域ニーズの共有や新たな社会資源の開発について議論する協議体や協議体運営会議では積極的な情報交換をおこないました。
- ◆協議体内にテーマを絞って話し合う部会を 3 つ設置、運営。
 - ・研修チーム会議 2 回
 - ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、部会の会議は研修企画チームのみ運営
 - ・担当チームで協議を行うことで、より密に事業の実施をしていくことができました。
- ◆生活支援に関する相談・対応件数

第 1 層生活支援コーディネーター		第 2 層生活支援コーディネーター(東園域)		第 2 層生活支援コーディネーター(西園域)	
相談：246 件	対応：252 件	相談：131 件	対応：466 件	相談：158 件	対応：579 件

- ・地域活動をしている団体や支え合い活動に興味のある個人と地域の課題解決に向けた話し合う場を設け、ネットワークを構築し、社会資源の創出をおこないました。また、生活支援のニーズに対し、マッチングをおこないました。（子ども福祉委員による生活支援 等）
- ◆学びの場づくり
 - ・移送の仕組みや地域活動の実践を学ぶ「阪南市移動支援学習会」を企画しましたが、コロナウイルス流行のため開催は次年度へ延期とします。
 - ・地域の活動者を養成する第 3 層生活支援コーディネーター養成研修を 2 回開催しました。参加者 22 名。

（３）成果・評価

- ・地域住民の想いに寄り添い、丁寧に支援してきたことで住民主体の活動に広がりが見られます。活動の立ち上げ支援だけでなく、地域活動者の悩みや相談に乗り、活動を継続していくための支援(話し合う場づくり、ニーズの代弁等)もおこないました。寄り添った支援の積み重ねにより、NPO 法人 COCO いこっこの訪問型生活支援活動、緑ヶ丘地区による訪問型生活支援活動の検討が進んでいます。コロナ禍においても、地域づくりを専門職主導で進めず、住民主体の理念に基づき活動の支援をすることで、やらされ感のない住民の想いが詰まった支え合い活動、地域づくり(総合事業)を阪南市で進めることができました。
- ・互いに支え合う重要性や総合事業の施策、生活支援コーディネーターの活動について知ってもらうことができました。参加者から「阪南市の推進する地域包括支援システムが良く理解できた。」「研修内容がとても理解でき、自分自身も地域活動に参加したいと考えていたので、役に立ちました。」との感想があり、地域づくりへの意識の変化がみられました。また、地域活動を住民目線でコーディネートしていく、第 3 層生活支援コーディネーターを 22 名養成しました。

（４）課題・今後の方針

- ・今年度に引き続き令和 3 年度は地域課題を「ふくし」で解決していく視点をもちながら地域に向いていく必要があります。また、アフターコロナの活動として、農園を活用した高齢者や障がい者の生きがいづくりや就労の場づくりをすすめ、耕作放棄の課題解決や生活困窮者の就労支援、地域とのつながりの再構築を進めていく必要があります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
17,222,220 円	市受託金	平成 28 年度

地域介護予防事業（市受託事業）

（１）事業概要

阪南市より委託を受け事業実施しています。

元気な高齢者を対象にした、生活機能の維持または向上を図るための事業です。介護予防の意識を高めるため、各校区（地区）福祉委員会等の協力を得て、身近な地域での体操教室や、サロンなどに出張して栄養教室を開催しています。

（２）実施内容・実績

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が４月に発出され、上半期に予定していた介護予防事業が実施できませんでした。９月より人数の制限、検温やソーシャルディスタンスの保持など感染対策を講じながらスタートとなりました。

プログラム	委託先	実施回数・参加延べ人数	内容
こつこつゆうゆう体操	和歌山YMCA	４０回・５１９人	筋力アップ体操
のびのび体操	谷川 直美 (市内福祉事業所)	６２回・１，２８１人	リズム体操、頭の体操
出張栄養教室	はつらつ尾崎地域活動 栄養士会	コロナ禍により、簡単 料理DVDを作成	２１種類の料理映像と 栄養の知識の冊子を希 望者に配布
お口の体操教室 －歌の健康サロン－	府中病院（講話） ライフケア尾崎（演奏）	６回・９人	口腔機能の維持の講話 と季節の歌、レクリエーション
地域回想法教室	回想法グループ 「スイートピー」	４回・６８人	折り紙、マスク作り、 レクリエーション等

（３）成果・評価

○こつこつゆうゆう体操

元気な方のみではなく、体力低下を自覚している方にも効果のある体操になっており、専門の講師によるサポートがきめ細かく、好評を博していました。

○のびのび体操

頭の体操としてのなぞなぞや川柳の宿題が参加者の楽しみとなっていたようです。スタンプラリーもモチベーションアップに効果的でした。

○出張栄養教室

出張料理教室の代わりに作成した料理DVDの視聴者からは、映像だからこそわかりやすく、やってみたいという気持ちになったとの嬉しいお声をいただきました。

○歌の健康サロン

「歌」という特性から周知が憚られたこと、実施期間中に緊急事態宣言が発出されたこともあり、参加者は少ない状況でした。講話も演奏も映像での実施でしたが、参加者からは好評でした。

○地域回想法教室

昔懐かしい手仕事をしながらの語らいが時の経つのも忘れるほどに楽しかったようです。「集まって一緒に何かをする」ということの喜び、幸せがひとと伝わってきました。

（４）課題・今後の方針

コロナ禍により、フレイル予防・介護予防の重要性が痛感された一年となりました。コロナを理由に、高齢者にとっての「ふだんの暮らし」の状況が悪化することがないように、介護予防の重要性の周知を積極的に行い、コロナを乗り越えた後も元気に過ごせるからだづくりを進めたいと思います。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
3,330,275 円	市受託金	平成 21 年度

民生委員児童委員協議会事務局事業

(1) 事業概要

民生委員児童委員協議会の事務全般（委嘱・表彰を除く）、会議の運営、委員の活動支援等。

(2) 実施内容・実績

月	日	会議	内容
5月	14日	臨時役員会	コロナ禍での情報共有
6月	23日	臨時役員会	コロナ禍での情報共有、市からの介護事業策定ヒアリング依頼
9月	3日	役員会	担い手確保・活動環境改善について
9月	28日	総会	担い手確保・活動環境改善について
1月	20日	役員会	令和3年度事業計画・予算の方向性について
2月	25日	役員会	令和3年度事業計画（案）、収支予算（案）について
3月	29日	総会	令和3年度事業計画（案）、収支予算（案）について

【部会】

- ・広報部会定例会 毎月1回（4月を除く）
広報紙発行 9月、3月
- ・主任児童委員定例会 毎月1回（4月、1月を除く）
- ・地域福祉部会 保健センター離乳食講習会等の保育（原則月1回）

【地区委員会】

- ・尾崎、東鳥取、西鳥取、下荘 各地区で地区研修実施。

(3) 成果・評価

阪南市生活支援課から事務局を引き継ぎ初年度であり、市からの伴走型支援を受けながらの業務でした。民生委員活動は地域活動とも密接に関わっており、社協が事務局業務をする意義を感じました。

(4) 課題・今後の方針

事務局業務を社協が担当することになったことを機に、民生委員はもとより、市担当課、事務局それぞれにとってわかりやすく事務業務を整理していきたいと思ひます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
27,270 円	なし	令和2年度

老人クラブ連合会事務局事業

(1) 事業概要

「生きがいづくりと健康づくり」を目標に各種活動を総合的におこなっている老人クラブ連合会の事務局を受託し、その活動を支援するとともに、老人クラブの活性化や新規会員増加のため、広報の充実に努めます。

(2) 実施内容・実績

老人クラブ連合会事務局の運営

- ・地域交流館 3 階に事務局を設置（毎週火～木曜日）
- ・幹事会 2 月 18 日(木) 13 時 30 分～

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総会や他の幹事会、定例会は中止

老人クラブの活動支援

- ・しにあ阪南発刊

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、他の全体事業は中止

(3) 成果・評価

阪南市介護保険課から事務局を引き継ぎ初年度であり、市からの伴走型支援を受けながら事業を進めました。

老人クラブ関係者との関係性構築を進めた 1 年でした。

(4) 課題・今後の方針

事務局業務を社協が担当することになったことを機に、老人クラブへの活動支援として、多様な主体との協働を進めてまいります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
2,000,000 円	市受託金	令和 2 年度

善意銀行事業

(1) 事業概要

善意銀行事業は、市民のみなさんからお預かりした善意のこもった寄附金や物品を、必要としている人や活動につなげることで地域福祉の増進を図る事業です。

お受けした寄付については、年4回発行の広報紙「ふくしはんなん」で報告しています。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 窓口での寄附金品の受け取り・指定先への払い出し
- 広報紙「ふくしはんなん」での実績の掲載 等
- パンフレット作成は次年度に見送る（寄附拡充やWEBでの受付整備との整合を図るため）

【実績】 延べ件数 151 件

○ 寄付金

件 数：124 件（前年度：105 件）

実 績：1,577,626 円（参考）前年度：14,488,017 円（遺贈 1 件除く 1,533,663 円）
（内 訳）

指定寄付先	件 数	実 績
校区（地区）福祉委員会	85 件	1,125,257 円
その他の団体	2 件	23,000 円
本会	37 件	429,369 円

○ 物品等

件 数：27 件（前年度：7 件）

実 績：836,966 円相当額

疑似体験 2 セット、三層不織布マスク 1,420 枚、あじさい鉢植え 1 株、
ポロシャツ 28 着、夢マスクプロジェクト（5 件 90 枚）、花一式 3 件、木材 30 枚、
食糧支援用食品 4 件（お米 30 kg 他）、車いす 2 台、衣料品 2 件、工具等 1 件、
介護用品 2 件、机・椅子セット 1 件

（内 訳）

指定寄付先	件 数
校区（地区）福祉委員会	0 件
その他の団体	0 件
本会	27 件

○ その他

（社）生命保険協会大阪府協会様より福祉巡回車（ダイハツミライース）受贈

(3) 成果・評価

- 新型コロナウイルス感染症の影響でマスクや食糧品など多く物品寄附を受け賜りました。

(4) 課題・今後の方針

- 件数が年々減少傾向にあることから、粗供養による寄附だけでなく遺贈・相続財産等による寄附の拡充に努める。また寄附しやすい環境づくりのためWEBでの寄附フォームの整備を検討する。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
1,979,936 円	寄附金収入・事業収入	昭和 56 年 4 月

阪南市地域交流センター「ふれ愛ホーム」

(1) 事業概要

「ふれ愛ホーム」は本会定款で基本財産として定められており、本会が社会福祉事業を実施するための大切な拠点となっています。

一方で、時代に応じその役割を変えてきており、阪南市地域交流館の市からの指定管理に伴う本会の事務局機能及び地域福祉活動やボランティア活動の支援拠点の移転により、従来の貸部屋を通したそれら活動の支援の役割は一旦終わりました。

その後は、阪南市を中心とした子育て支援を行なう特定非営利活動法人「子どもNPOはらっぱ」に施設の一部を貸出すことで地域福祉推進に寄与しています。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 施設の一部を貸し出し、特定非営利活動法人「子どもNPOはらっぱ」が取り組む子育て支援活動等への支援を図りました。

【実績】

- 子育て支援団体活動拠点の提供を行いました。
- 消防設備の誘導灯2組を取り替えました。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、「健康記録票」を準備しました。

(3) 成果・評価

- 本会の基本財産を子育て支援の拠点として活用しました。

(4) 課題・今後の方針

- 阪南市内で取り組まれているボランティア活動団体の拠点として本施設を活用することができないか、あらためて検討を図ります。
- 施設の設備に老朽化している部分があり、今後修繕の費用が必要になってくると見込まれます。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
432,485 円	事業収入	平成 15 年 7 月

地域交流館管理運営事業

(1) 事業概要

阪南市より第2期指定管理契約（平成29年度～令和3年度）を受け事業実施しています。

阪南市地域交流館において、地域福祉活動、生涯学習活動、社会教育活動（尾崎公民館）、NPO など市民公益活動（市民活動センター）のそれぞれの活動を支援するとともに相互に連携を図るため拠点機能・調整役機能を最大限に発揮して業務を行います。

(2) 実施内容・実績

業務	実績（内容）
尾崎公民館、市民活動センター、社会福祉協議会による定例連絡会議の開催	月1回会議を実施することで、三団体が円滑に情報共有等することが出来ました。
総合情報コーナーの設置・情報の掲示	社会福祉、防災、ボランティア等に関する情報や、市民活動センター、尾崎公民館の情報を集約・掲示等し、阪南市地域交流館の利用者や市民が、交流や情報交換を図れる場として開放しました。
本会事業を通じた地域交流館のPR	① 「きらめきアート作品展」（従来のシニア・障がい者いきいき創作展）の地域交流館での開催によるPR ② 認知症理解啓発および認知症支援事業でのPR ③ 当事者団体の拠点支援によるPR ※本会が実施するカフェ事業での貸館利用者の利便性向上や地域交流館のPRは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業自体が実施されませんでした。同様に、社協セミナー、ボランティア市民活動フェスティバル等も感染症拡大防止のため事業自体が実施されず、PRできませんでした。
地域交流館の共用会議室および体育施設の使用許可に関する業務および利用料金徴収に関する業務	【貸館実績（のべ数）】 共用会議室 1～4 756件（前年比84%）6,870人利用 体育施設 395件（前年比89%）6,098人利用 合計 1,151件 12,968人利用 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための使用制限を実施 ・4月1日（水）～5月24日（日）使用中止（5月19日（火）より会議目的のみ使用再開） ・1月19日（火）～2月27日（土）夜間貸室20時まで使用制限 ・年間通して密を避けるため定員を概ね通常の半数以下に制限
施設管理業務の適正かつ効率的な実施 （委託先） ① エレベーター点検、調整業務	① 三菱電機ビルテクノサービス株式会社による毎月のリモート点検・年4回の作業点検 ② 有限会社阪南防災による消防用設備等定期点検年2

② 消防用設備等定期点検業務・防火対象物定期点検業務	回・防火対象物定期点検年 1 回
③ 電気工作物定期点検業務	③ 根無電気設備管理事務所による毎月の点検と年 1 回の法定点検
④ 簡易専用水道管理業務	④ 株式会社ユニテックスによる年 1 回の点検
⑤ 自動扉保守点検業務	⑤ ナブコドア株式会社による年 4 回の点検
⑥ 敷地内・施設内の案内・巡回業務	⑥ 公益社団法人シルバー人材センターからの派遣による施設管理・夜間管理・清掃業務

(3) 成果・評価

地域交流館管理運営事業の貸館実績において、共用会議室・体育施設の利用件数は、令和元年度はのべ1,341件、令和2年度はのべ1,151件、前年比86%に減少しました。

共用会議室・体育施設の利用料収入は、令和元年度は955,500円、令和2年度は724,600円、前年比76%に減少しました。

この結果は、令和2年3月に新型コロナウイルス感染拡大防止策として、阪南市の要請を受け施設の使用中止が始まり5月まで継続、令和3年1月～2月には夜間の使用時間制限（上記「(2) 実施内容・実績」参照）、また、年間を通して、施設の定員を半数に制限し、利用者側も活動を自粛していたこと等が原因と考えられます。

一方で、本会事業の「きらめきアート作品展」は、感染予防対策を行った上で開催し、多くの来場者を迎え、地域交流館をPRすることができました。

敷地内・施設内の案内・巡回業務に関しては、その一部の業務を公益社団法人シルバー人材センターへ委託し安全・安心の確保や事故防止に努めました。

館内の清掃業務に関しては、利用者が快適に施設を利用出来るよう清掃業務を行いました。

さらに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、「健康記録票」を用意し利用者の体調や連絡先を把握。不特定多数の利用者に対しては、大阪府のコロナ追跡システムのQRコードを取得しました。また、手指消毒の奨励、職員による物品や設備の除菌も行いました。

また、施設利用の窓口には、複数の職員体制を整え、スムーズに対応しました。

(4) 課題・今後の方針

令和2年度は委託料が年間11,457,000円だったところ、令和3年度は11,732,000円と275,000円増加しています。ただし、働き方改革による人件費など経費の増加、経年劣化による施設の修繕等の影響で、支出増加は必須です。また、新年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止で施設利用料収入の減少は避けられません。その中でも、感染症対策を行いながら施設利用料収入の確保等に尽力する必要があります。

令和3年度は、公益社団法人シルバー人材センターに委託する施設管理の時間数をさらに減らし（平日朝の勤務を削減）、経費削減を図り、代替の業務を職員で補います。また、利用者の減少に合わせて清掃の日数を減らし（日曜日の清掃を削減）経費削減を図ります。

多くの市民に親しまれる施設として、職員は、利用者対応・接遇などに必要な技術取得に努め、サービスの質の向上、利便性の向上を図ります。障がいのある方、高齢者も含め、すべての方が安心・安全、そして快適に利用できるよう、ハード・ソフト両面での顧客満足度向上をすすめます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
12,726,897 円	受託金収入 事業収入	平成 26 年 4 月 （第 1 期受託） 平成 29 年 4 月 （第 2 期受託）

赤い羽根共同募金運動（一般募金）（共同募金協力事業）

（１）事業概要

社会福祉法では、地域福祉推進に係わる規定が設けられ、その中に位置づけられた共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に向け、民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として取り組まれています。

本会は阪南地区募金会として、阪南市内での本運動の推進に取り組んでいます。

（２）実施内容・実績

【実施事業の内容】

10月1日から12月31日までの3か月間、校区（地区）福祉委員会や自治会、学校・幼稚園等各種団体および企業のご協力を得て取り組みました。

本会（阪南地区募金会）が取り組んだ募金の種別は、主に以下のとおりです。

○戸別募金

自治会等の協力を得て、地域の各家庭へ募金を呼びかけました。

○街頭募金

新型コロナウイルス感染症予防に努め、人数と会場を縮小し会長・副会長・顧問の協力のもと商業施設にて募金を呼びかけました。

○法人募金

福祉委員会の協力を得て、企業等に寄付を依頼しました。

○職域募金

社協内部と阪南市役所にて募金を依頼しました。

○学校募金

学校・幼稚園において生徒・児童に募金を呼びかけました。

○バッジ募金

公募されたデザインのバッジを1個500円で頒布しました。

【諸会議及び研修】

○9月の三役会にて協力依頼、校区(地区)長・事務長会議にて今年度の実施方法をお伝えしました。

【実績】

令和2年度募金実績合計額 2,897,492 円

(参考)

令和元年度募金実績合計額 3,196,592 円

(内訳)

種 別	金 額
戸別募金	1,941,090 円
法人募金	384,000 円
学校募金	100,444 円
職域募金	11,486 円
街頭募金	21,688 円
バッジ募金	329,500 円
その他	109,284 円

（３）成果・評価

○感染症予防の観点から例年と比べ縮小して実施しましたが、職域募金やバッジ募金など昨年度以上に協力いただいた募金もありました。

（４）課題・今後の方針

○実績額の減額にあたり募金の配分や、感染症予防に努めた募金方法について、これからも検討していく必要があります。

歳末たすけあい運動（共同募金協力事業）

（１）事業概要

社会福祉法では、地域福祉推進に係わる規定が設けられ、その中に位置づけられた共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に向け、民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として取り組まれています。

本会は阪南地区募金会として、阪南市内での本運動の推進に取り組んでいます。

（２）実施内容・実績

【実施事業の内容】

12月の歳末期に、会長・副会長・顧問の協力を得て、街頭募金に取り組みました。

○街頭募金

新型コロナウイルス感染症予防に努め、人数と会場を縮小し会長・副会長・顧問の協力のもと商業施設にて募金を呼びかけました。

【諸会議及び研修】

○11月の三役会にて協力依頼、校区(地区)長・事務長会議にて今年度の実施方法をお伝えしました。

【実績】

○令和2年度募金実績

区 分	金 額	(参考) 昨年度金額
前年度繰越額	10,417 円	18,799 円
当該年度実績額	83,173 円	111,618 円
計	93,590 円	130,417 円

【配分】

○6団体6活動 配分額計 59,777 円

【翌年度繰越額】

○33,813 円（＝募金実績額計－配分額計）

（３）成果・評価

○平成26年度より取り組みはじめ、今年度は子どもたちの年末イベント、地域での世代間交流等のさまざまな活動に活用しました。残額 33,813 円は全額を大阪府共同募金会に送金し、次年度歳末たすけあい運動で集まった募金額と合わせて、次年度の配分金として活用します。

○新型コロナウイルス感染症予防として活動を自粛している団体も多く申請団体が少なかった。また、街頭募金も縮小して実施しました。

（４）課題・今後の方針

○集まった募金がより有意義かつ様々な団体・活動に活用されるよう、広報に努めてまいります。

不動産賃貸事業

(1) 事業概要

不動産賃貸事業は、収益事業として法人が有する不動産を貸出し、得た賃料を自主財源として法人運営等に活用することで、法人の安定した運営を目指します。

(2) 実施内容・実績

【内容】

○ 自然田土地の賃貸事業

遺贈者の賃貸契約を引き継ぎ、借手等継続したものとして賃貸料収入を得ました。

○ 尾崎駅前土地・建物の賃貸事業

新たに管理業務及び契約に向けた借手の募集を不動産業者に依頼しました。

7月から土地・建物を一手に借りる地元事業所がみつき、賃貸契約の締結を行いました。契約書に基づく、新たな賃貸料収入を得られるようになりました。

(4) 課題・今後の方針

○ 継続して、賃貸料を得られるよう管理運営を行います。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
2,082,783 円	不動産賃貸事業収入	令和2年4月

下荘・桃の木台圏域コミュニティソーシャルワーカー（CSW）事業

（１）事業概要

社会的孤立や複数の福祉課題を抱える要援護者世帯を発見し、地域全体で支える地域福祉のセーフティネットづくりを進めます。また関係機関や団体が参画する地域福祉ネットワークの構築をすすめ、地域の社会資源や住民団体等とも連携し、CSW事業が有効に機能するよう取り組みます。

（２）実施内容・実績

○総合相談窓口の開設

・高齢者、障がい者、ひとり親家庭、生活困窮者等の「制度の狭間にある方」の支援（相談件数は別紙参照）

○災害時要援護者支援推進事業（くらしの安心ダイヤル事業の推進）

- ・校区福祉委員・民生児童委員との連携した要援護者の見守り、発見、相談等の協働支援
- ・安心ダイヤルの登録、更新作業

○地域拠点相談支援事業

- ・地域のサロンやカフェへの出張相談（計３９件）
- ・既存の公的サービス等との協働（つなぎ）、各種サービスの利用申請
- ・支えあい会議の実施（計１０回）

○地域ケア推進事業

- ・介護予防、健康増進事業への協力

○地域福祉計画策定及び推進事業

- ・介護予防、健康増進事業への協力

○社会参加・居場所づくり推進事業

- ・まちなかサロン・カフェをはじめとする地域への居場所への参加促進
- ・共生型サロン「きらきら」の運営支援
- ・まちなかサロン・カフェネットワーク連絡会の開催
- ・医療職と連携した、感染症対策の周知活動

○各種保健福祉サービス等の周知啓発活動

- ・地域に出向いたアウトリーチ型の周知啓発活動
- ・周知啓発用のチラシ作成（各種制度チラシ、地域版つながりレターなど）

○研修参加

- ・CSWスキルアップ研修参加（計３回）

（３）成果・評価

箱作地区、桃の木台校区では、校区福祉委員・民生委員と一緒に話し合いを重ねながら、救急キットの更新作業の仕組みを整える事ができました。

出張相談では、制度の狭間にある方に対し、地域の活動者との協働や、各関係機関や制度へのつなぎ、支えあい会議へと発展させることができました。

（４）課題・今後の方針

個別ケースの抱える課題が複合的かつ複雑になっています。

特に、若年層による社会的孤立や複数の課題を抱えるケースや課題を、地域と専門職が協働して、いち早くキャッチし、つながり続けられるような仕組みづくりが必要です。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
4,320,000 円	市受託金	令和２年度

生活サポート商品券交付事業

(1) 事業概要

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入減少や失業等により日常生活に大きな影響を受け、一時的に生活困窮状態に陥っている市に居住する世帯に対し、期間及び使用が限定された商品券を配布し家計を応援するとともに、休業や活動自粛等により売上が減少している小売店、飲食店等の事業者を支援し、地域経済の再生及び活性化に資することを目的とした事業。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 新型コロナウイルス感染症特例貸付を令和2年9月30日までに申請し、かつ同年11月30日までに決定を受けた世帯へ配布
- 生活困窮者住居確保給付金を令和2年9月30日までに申請し、かつ同年11月30日までに支給決定を受けた世帯へ配布
- 阪南市商工会商品券1世帯あたり30,000円（500円×60枚）分を配布

【実績】

- 商品券発送：369件
- 商品券支給：368件（就労先が市外であったため1件辞退）
- 使用期限お知らせ通知発送：367件（商品券支給のうち1件市外へ転居されたため）

(3) 成果・評価

- 新型コロナウイルス感染症の影響により生活困窮に陥る世帯が広がる中、地方創生臨時交付金を活用した商品券発送業務を年度途中で市より受託し、商品券の発送業務を行いました。
- 新型コロナウイルス感染症特例貸付の窓口である社協へ、顔の見える関係であったからか、商品券が届いた世帯の方々よりお礼の言葉が多く寄せられました。

(4) 課題・今後の方針

- 商品券の発送業務を受託することで広く社協の存在を知って頂いたことを機に、今後も引き続き寄り添った相談を行ってまいります。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
11,863,270 円	市受託金	令和2年8月

総合相談支援業務（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

身近な圏域でのワンストップの総合相談窓口として、社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員、認知症地域支援推進員等の専門性を活かし、高齢者を中心とした全ての住民の相談支援および訪問相談業務を行い、課題把握をします。その際、本会の特性と実績を活かし、様々な地域でのインフォーマル資源や多様な関係機関とのつながりを意識した対応を行います。

圏域内には、5つの校区（地区）でまちなかサロン・カフェや小地域ネットワーク活動が実施されています。できるだけ身近な場所で高齢者の困りごとを把握できるよう、これらのサロン・カフェ等と連携し、職員による出張相談を実施します。出張相談では、直接困りごとの相談を受けるとともに、校区（地区）福祉委員や民生委員等が把握している高齢者に関する情報もあわせてキャッチします。

（２）実施内容・実績

○相談件数…4,492件

（３）成果・評価

- コロナ禍でも、昨年度比微増の相談件数となりました
- 相談方法は、コロナ感染対策による訪問活動の自粛により、電話による対応が増えています
- 相談経路は、家族やケアマネジャー、民生委員・福祉委員など、コロナ前から関わる機関等からの相談が多く、反面、近隣での気づきによる相談や医療機関からの相談が減少しました。
- 相談内容は、介護予防サービスの中でも住宅改修が増加し、福祉サービスとしてくらしの安心ダイヤル事業への登録が増えました。また近隣トラブルや精神疾患、財産関係の相談が減少し、虐待事例は増加傾向にあります。
- 地域活動が自粛傾向にあったため、地域へ出向いての出張相談ができませんでした。

（４）課題・今後の方針

- 個別支援においても、コロナの影響により、感染対策をしながらの対応が求められています。
- 地域や家族とのつながりがあった方であればあるほど、健康を維持している傾向が強く、早期の介入につなげることができています。
- 元々、孤立傾向にあった方はさらに孤立化が進み、症状が悪化してから相談につながるが多くなっています。
- 日頃から様々な人や機関とのつながりを大切にすることが、コロナや災害時においても健康を維持することにつながるため、コロナ禍でも近隣や家族、その他たくさんの方が気にかけてくれるような支援を心がけていきます。

権利擁護事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

高齢者の人権を護るため、相談や通報に対し市役所や関係機関と連携し、対応します。また、高齢者虐待、消費者被害の早期発見や予防を図るため、対処法や制度についての啓発活動を行います。

（２）実施内容・実績

【相談実績】（延べ件数）

相談内容内訳	相談件数
権利擁護	13
成年後見等	21
虐待関係	110
消費者被害等	5
財産・経済問題	34
合計	183

【会議・研修】

○地域包括支援センター職員向け 法律相談（２か月に１回 第４木曜日） 計 6 回

（３）成果・評価

- 地域住民から成年後見制度についての問い合わせが多くあり、地域包括支援センターの周知が少しずつ広がっていると感じられます。
- 地域住民や事業所から新型コロナウイルス関連の相談が増加していたこともあり、現場と照らし合わせた法的な助言を図る事ができました。
- 虐待関係の相談が激増しました。相談の都度、行政と協働し、対応することができました。

（４）課題・今後の方針

- 消費者被害の防止、成年後見制度活用促進に加え特に昨今、新型コロナウイルスの影響で、高齢者虐待ケースの相談が増加してきております。地域の見守りや他の専門機関と連携し早期発見が促進するよう周知啓発に取り組みます。
- 過去の法律相談で用いた事例内容の見える化をおこない、事業所内の職員全員が同じような対応ができるようにしていきます。

包括的・継続的ケアマネジメント事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

地域のケアマネジャーが包括的、継続的なケアマネジメントを実施できるよう、地域のネットワークを構築すると共にケアマネジャーへの支援を行います。

（２）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
ケアマネジャーへの支援・助言・相談	随時	延べ 573 件（内訳） ●利用者支援相談 175 件 ●実務相談 228 件 ●給付算定関係 81 件 ●個別地域ケア会議 6 件 ●個別事例検討会 1 件 ●その他 82 件

ケアマネジャー連絡会	4回（中止2回、書面開催1回、オンライン開催1回）	延べ60名出席（コロナ感染予防のため人数制限あり）
Mina de jirei α	10回（事例提供者、助言者として参加）	
6市町ケアマネジャー合同連絡会	2回（書面開催）	

（３）成果・評価

- ケアマネジャー間の連絡、調整手段として定着してきた「MCS」（メディカルケアステーション）が、行政の協力もありコロナ禍での情報共有手段として幅広く活用され、阪南市外の居宅介護支援事業所との情報共有や連携もスムーズに行えるようになりました。
- 6市町ケアマネジャー合同連絡会では、コロナ禍でのケアマネジャー連絡会の開催方法や開催にあたっての工夫について各市町の状況を共有しました。
- 事業所連絡会、Mina de jirei、Mina de study はコロナ禍での開催手段に苦慮し、結果として開催に至りませんでした。
- ケアマネジャー連絡会はコロナ禍での開催手段として感染対策予防を行いながらの開催、書面開催を試みましたが、オンライン開催についての必要性の提言や要望もあり、オンラインにて開催しました。
- ケアマネジャーが主体となり、地域の社会資源や阪南市におけるケアマネジメントを集約する作業部会が発足しました。
- 自立支援型ケアマネジメントについて、研修会や自立支援型地域ケア会議、地域包括支援センターによる個別支援から自立支援の視点が浸透していましたが、コロナ禍における自立支援への動機づけが難しい状況にあります。

（４）課題・今後の方針

- コロナ禍でケアマネジャーと顔を合わせる機会が激減し、個々のケアマネジャーが抱える問題の把握が難しくなっています。
- 地域包括支援センターへの提出書類の多さや煩雑さが、連絡会や研修会への参加を躊躇させたり、ケアプラン業務の受託がしづらい状況につながっていると考えています。
- 主任ケアマネジャー更新研修の要件である法定外研修（Mina de study）を開催することができませんでした。
- コロナ禍でも法定外研修ができる手法を学び、オンライン等の開催ができるよう取り組みます。
- 必要書類の見直し（簡素化）により、地域のケアマネジャー業務の負担軽減を図ります。

地域ケア会議推進事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

圏域内での医療、介護、福祉等の専門職と、校区福祉委員会や民生委員、ボランティア等の住民活動者が連携協働し、高齢者の地域での生活を支えるため、個別、地区、市域等で地域ケア会議を開催します。
 ＊阪南市では地域ケア会議を「支えあい会議」という名称で進めています。

（２）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
個別支えあい会議	8回	認知症高齢者の見守り体制づくり、近隣トラブル、要介護者と住民の支えあい活動、生活困窮者に対する支援体制、在宅看取りに向けた話しあい

		など
校区・地区支えあい会議	4回	コロナ禍における地域の高齢者の状況など
エリア会議	16回	各校区の状況や課題の共有
エリア会議全体会	3回	市域の状況課題の共有

(3) 成果・評価

○コロナ禍においても、社協のコミュニティワーカーや生活支援コーディネーター、コミュニティソーシャルワーカーとのエリア会議は開催し、地域活動の再開やフレイル高齢者の課題を共有、医療職による感染対策チームの発足や、介護予防の周知啓発のためのチラシづくりにつなげることができました。

(4) 課題・今後の方針

- コロナの影響で各活動が自粛と再開を余儀なくされており、住民と多機関の専門職が協働で話しあうなどの場づくりがうまく進められませんでした。
- 地域住民と専門職が直接の対話はできなくとも、住民が求めることに対して当センターが調整役となり、専門職へそのニーズをつなぎ、広報等のコロナ禍だからこそできる新たなつながり活動を進められるよう取り組んでいきます。

介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力（市受託：包括的支援事業）

(1) 事業概要

本会に配置された第1層、第2層生活支援コーディネーターと緊密に連携し、総合事業や生活支援サービスのあり方、住民主体による支援について検討するため、「阪南市生活支援・介護予防サービス協議会」の運営に積極的に参画・協力します。

(2) 実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
第1層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への参画	4回	地域における支えあい活動の共有
第2層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への協力	6回	舞シニアサポート 箱の浦まちづくり協議会への参画

(3) 成果・評価

○生活支援コーディネーターと個別事例の連携を通じ、地域の支えあい活動によって支援の輪が広がり、困りごとの解決につながりました。

(4) 課題・今後の方針

- コロナの影響で住民主体サービスのB型活動も、感染対策をしながらの活動を強いられました。
- そんな中でも、屋外の活動は可能な限り継続されたり、電話による安否確認をおこなったり、また、要介護者への支援をどうするかを検討をおこなうなど、住民同士だからこそ気にかけてあえる活動にと熟していることを感じました。

在宅医療・介護連携の推進事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

医療職及び介護職の「顔の見える関係」を築くため「医療と介護の多職種連携会議」へ参画し、医療と介護の円滑な支援体制を構築します。

（２）実施内容・実績

【阪南市医療と介護の多職種連携会議（はなていネット）、泉佐野泉南医師会との協働事業】

プログラム	実施回数	実績
運営会議	1回	コロナ禍での各活動の共有
施設部会	1回	施設看取りについて
病院部会	（未開催）	コロナ禍で未実施
訪問看護部会	2回	コロナ禍の事業所間の協力体制
通所部会	2回	コロナ禍における困りごと
訪問介護部会	4回	コロナ禍における困りごとなど
3市3町多職種連携会議	1回	A C Pや認知症支援の方向性など
市内診療所、クリニック訪問	4回	泉佐野泉南医師会協働事業

（３）成果・評価

- MCS（インターネット上でのコミュニケーションツール）やオンライン会議の開催など、集まれなくても意見交換をする場づくりの調整をおこないました。
- コロナ禍における事業所間の協力体制を敷こうと、部会同士が意見交換をおこないました。
- 各事業所や専門職のコロナ禍における困りごとを集約、市と共有し、医療や介護事業所への情報発信や感染対策用品の市と包括が連動したスムーズな配布へとつながりました。

（４）課題・今後の方針

- 部会同士がオンライン等のツールを活用して交流できる場を調整していきます。
- 専門職が地域住民と協働できる場づくりを推進していきます。
- 地域住民への啓発活動等は、集まりづらいことを想定し、広報誌等を活用しておこなっていきます。

介護予防事業普及啓発活動への協力（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

①いきいき百歳体操

錘を使用し、エビデンスのある体操を推奨することで、高齢者の筋力を高めるだけでなく、住民主体の通いの場の設置を支援し介護予防を図ります。

②出前講座

保健師や専門職による介護予防・認知症予防を行うことで、介護予防や認知症予防に対しての意識づけを行い、健康増進を図ります。

（２）実施内容・実績

①いきいき百歳体操

・DVDを見ながら、住民自ら錘を使用して体操を実施。

【初回指導】(1グループにつき4回)実施 実績 開催 1グループ 1回 延参加者数9人

【経過指導】(3か月・6か月・1年後・以降半年に1回)実績 開催 1回 延参加者数14人

【交流会】実績 開催0回 延参加者数0人

【活動再開時体力測定】実績 開催2回 延参加人数14人

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、活動自粛が及ぼす体力測定の変化について調べた。

②出前講座

・ノリの良い曲に合わせての介護予防運動、脳トレを用いての認知症予防

実績開催 2回 延参加者数40人

(3) 成果・評価

○グループ設置目標数(市全体)30グループのところ、実績22グループであり、コロナの影響を多分に受けた活動となっています。

○活動を再開されたグループに体力測定を実施した結果、自粛前と比較すると5m歩行において有意差がみられました。

○体力測定の調査報告とフレイル予防を啓発するためのチラシを作成、周知しました。

○出前講座は、コロナ対策を十分におこなったうえで内容を考慮しながら、体操、クイズ等を実施しました。

(4) 課題・今後の方針

○身近な場所で百歳体操が開催されるよう、積極的にPRを行い普及啓発に努めます。

○百歳体操はコロナ禍でも行える体操であることをPRし、活動グループを増やしていきます。

○出前講座では、今後もコロナ禍が続くことを想定して、感染予防に考慮しながら自宅でも取り組めるフレイル予防を中心に取り組んでいきます。

任意事業：介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業 (市受託：包括的支援事業)

(1) 事業概要

介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業に協力し、高齢者やその家族の経済的、精神的な負担軽減や介護サービス事業所のサービス力の質の向上をめざします。

(2) 実施内容・実績

【介護用品支給事業】：要介護3～5の高齢者に対し、申請代行等を行います。

○計1件

【住宅改修支援事業】：住宅改修に関しての助言や住宅改修理由書の作成に協力します。

○計21件

【介護相談員派遣事業】：意見交換会への参加等を行います。

○コロナの影響で中止

（３）成果・評価

【介護用品支給事業】

○１件のみですが、経済的な負担軽減につながりました。

【住宅改修支援事業】

○前年度比、約１．５倍ほどに増加しました。

【介護相談員派遣事業】

○コロナの影響で中止

（４）課題・今後の方針

【介護用品支給事業】

【住宅改修支援事業】

○コロナ自粛により、手すり等の取り付けを希望相談が増えています。比較的、軽度なサービス利用である住宅改修のみで、健康維持できていることは普段からの介護予防への意識も低くない現れだと感じています。しかし、自粛が続くと悪化がひどくなっていくことは今後の課題にもなっており、さらなる介護予防活動との連携が必要です。

認知症施策の推進（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

認知症地域支援推進を配置し、認知症当事者や家族などが尊厳を保ちながら、その人らしく穏やかに生活を送ることができるよう、認知症施策や事業の企画、調整などコーディネートし、認知症の人が地域で暮らし続けるために、地域の支援者や支援機関とのつながりづくりをおこなっていきます。

（２）実施内容・実績

プログラム		実績
普及啓発・本人発信支援	認知症サポーター養成講座	コロナ禍により開催先を制限して実施
	地域別キャラバン・メイト連絡会	コロナ禍でもできる活動の提案
	地域別キャラバン・メイト代表者会議	コロナ禍で未実施
	認知症支援マップの作成	コロナ禍でもできる周知啓発活動として実施
	朗読劇「おにぎり物語」	市、住民活動者と協働
当事者、活動者支援	卓球クラブ中田会の活動支援	地域交流館や学校施設で活動
	おにぎり会の米作り活動支援	田植え、稲刈り、おにぎりカフェの開催
	くつろぎカフェ活動支援	コロナの影響で活動中止
	パーキンソン病患者 あざみ会活動支援	専門職との交流等
	マスターズC a f e の活動支援	認知症当事者、支援者、家族の交流等
集中支援チーム	チームオレンジの構築	コロナ禍で未実施
	認知症初期集中支援チーム員会議	包括内にて２１回開催
	認知症初期集中チーム員支援会議	認知症サポート医とともに事例検討
	認知症初期集中支援チーム検討会	チームの実働の課題の共有
の医療・介護	認知症ネットワーク部会	１回開催
	３市３町認知症対応ネットワーク会議	泉佐野泉南医師会と協働
	大阪府内認知症連携関係者連絡会	府下の認知症支援情報の共有
	６市町認知症地域支援推進員連絡会	他市の認知症地域支援推進員と協働

認知症疾患医療連携協議会	病院主催の集まりに参画
--------------	-------------

認知症地域支援推進員活動状況（個別支援）

相談内容内訳	相談件数
利用者からの相談	1 1 5
家族からの相談	1 1 4
関係機関等からの相談	5 7
関係機関との連携体制構築等	1 1 8
認知症初期集中支援チームとの連携	1 2

認知症地域支援推進員活動状況（団体支援）

	延件数	参加人数等
西圏域	133	2829

（３）成果・評価

- 朗読劇をツールにした認知症啓発は、より身近に認知症を考える機会のきっかけづくりとなった。
- コロナの影響で集まっていた講座の対案として、認知症支援マップづくりをおこなった。
- 大阪府の推薦でチームオレンジコーディネーター研修等事業への協力をおこなった。
- 当事者支援では、ニーズに合わせた専門職の参画やコロナ禍でもできる活動をおこなった。
- 専門職のネットワーク構築では、認知症当事者や家族を含めた多職種連携の事例報告をおこなった。

（４）課題・今後の方針

- 認知症をきっかけに社会から孤立している状態にある人が増えています。
- 適切な医療・介護サービスへつながりだけでなく、役割を持って生活できるよう、また人と人とのつながりが途切れることのないように認知症にやさしいまちづくりの取り組みを進めていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
33,148,000 円	市委託料収入	2 0 1 6 年度

介護予防サービス計画の作成（指定介護予防支援事業）

（１）事業概要

加齢や疾病によって「生活の一部に支援が必要な状態」や、「介護保険サービスを適切に利用することで心身機能の改善が見込まれる可能性がある」として、要支援 1、要支援 2、事業対象者に認定された方々の自立支援を目指し、本人のやる気を引き出せるように介護保険サービスや地域住民、ボランティアやインフォーマルサービスを組み込んだ計画を本人、家族、関係機関と調整しながら作成します。

（２）実施内容・実績

【ケアプラン作成件数】 下記 参照

○総ケアプラン数 合計 4, 0 7 8 件

（包括作成数 9 6 7 件 委託数 3, 1 0 9 件）

（３）成果・評価

- コロナの影響で、年度当初は介護保険の利用控えや申請控えにより、介護保険の利用が減少しました。
- 徐々に利用や申請が増加し、特に福祉用具貸与や住宅改修の利用申請が増加しました。
- コロナ自粛によるフレイル（心身の状態悪化）の予防に努めることを念頭に、家族や地域、専門サー

ビスの調整を心がけました。

（４）課題・今後の方針

○コロナが影響したフレイル予防を心がけるため、できる限り要介護状態にならないようなケアマネジメントを心がけていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
17,385,517 円	介護保険事業収入	2016年度

認知症啓発事業業務（市受託事業）

（１）事業概要

認知症に対する理解の普及・啓発のため、職域、圏域、校区（地区）、自治会単位等の身近な地域での啓発活動を進めるため、認知症（予防）の勉強会や冊子づくり等を開催いたします。

（２）実施内容・実績

【認知症普及・啓発業務】

① ワークショップ

内容：「思い出ノート作成講座」（回想法を活用したワークショップ）

日時：令和2年9月30日

場所：サービス付き高齢者向け住宅レジデンス・ケア ララさくら

講師：回想法ボランティアグループスイートピー 古家 久枝

実績、対象者：訪問看護ステーションさくら職員 7名

② にっこり阪南マップ（認知症支援マップ）作成

対象：各介護事業に関わる機関の窓口へ来所

専門職の出前講座や出張相談先での配布（カフェ・サロン等）

想定人数：不特定多数

（３）成果・評価

○回想法という手法でこれまでの人生史を聞くことが、ACP（人生の終末期も見越した事前の話しあい）にも活用できることは事業所や施設側にとっても本人と話がしやすくなるという声もあり、エンディングノートの代替としても期待が見込めます。

（４）課題・今後の方針

○今回の開催をきっかけに、認知症支援マップとともに周知を広げ、介護予防や認知症予防、ACP（人生の終末期も見越した事前の話しあい）につなげていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
71,000 円	認知症啓発事業業務委託収入	2018年度

その他の会議・研修等

① 地域包括ケアに関連する会議

【会議名：阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年7月30日	阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和2年10月30日	阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会（阪南市／阪南市）	熊抱

【会議名：阪南市地域包括支援センター連絡会議（地域包括ケア推進戦略会議）】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年7月17日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／地域交流館）	熊抱
令和2年8月28日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和2年9月18日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	オンライン
令和2年10月16日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／尾崎・東鳥取下荘地域包括支援センター）	熊抱
令和2年11月20日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／地域交流館）	熊抱
令和2年12月18日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱
令和3年2月19日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／オンライン）	熊抱
令和3年3月19日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／オンライン）	熊抱

【会議名：阪南市・阪南市地域包括支援センター主任ケアマネジャー会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和3年3月4日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	寺井
令和3年3月25日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	寺井

【会議名：阪南市地域包括支援センター社会福祉士会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年4月13日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和2年6月11日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和2年7月2日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和2年8月7日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和2年9月10日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和2年10月8日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和2年11月12日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和2年12月11日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和3年1月15日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和3年2月12日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	熊抱、尾崎
令和3年3月1日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	熊抱、尾崎

【会議名：阪南市・阪南市地域包括支援センター医療職会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年6月1日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚
令和2年7月8日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	大塚
令和2年8月11日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚
令和2年9月14日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	大塚
令和2年11月11日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚
令和2年12月22日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	大塚
令和3年1月14日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	大塚
令和3年2月8日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	大塚

【会議名：阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年6月1日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	西包括職員
令和2年7月28日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	西包括職員
令和2年8月25日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	西包括職員
令和2年9月29日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	西包括職員
令和2年10月27日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	西包括職員
令和2年11月24日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	西包括職員
令和2年12月22日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	西包括職員
令和3年1月26日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	西包括職員
令和3年2月16日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター	西包括職員

	／同センター内)	
令和3年3月23日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内)	西包括職員

【会議名：庁内連携会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年7月20日	庁内連携会議（阪南市／阪南市）	熊抱
令和3年2月10日	庁内連携会議（阪南市／阪南市）	熊抱

【会議名：校区福祉委員会委員長長事務長コーディネート会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年7月10日	校区福祉委員会校区長事務長コーディネート会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和2年11月13日	校区福祉委員会校区長事務長コーディネート会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和3年1月8日	校区福祉委員会校区長事務長コーディネート会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和3年3月5日	校区福祉委員会校区長事務長コーディネート会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱

② その他、関連する会議等

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（グループホーム白馬）】

日 時	名 称	参加者
令和2年9月16日	地域密着型サービス運営推進会議	尾崎

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（小規模多機能型居宅介護 下荘）】

日 時	名 称	参加者
令和2年9月24日	地域密着型サービス運営推進会議	熊抱
令和2年11月21日	地域密着型サービス運営推進会議	熊抱

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（ほっとデイわが家）】

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（グループホーム はるすのお家・阪南）】

日 時	名 称	参加者
令和2年9月25日	地域密着型サービス運営推進会議	熊抱

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（ピープルデイサービスセンターはんなん）】

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（デｲｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ海豊・小規模多機能型サービス海豊）】

日 時	名 称	参加者
令和2年11月19日	地域密着型サービス運営推進会議	熊抱、尾崎

③ その他、関連する研修等

【資質向上、新任研修会等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年5月27日	阪南社協新任職員研修（阪南社協／地域交流館）	尾崎
令和2年6月19日	阪南社協新任職員研修（阪南社協／地域交流館）	尾崎
令和2年6月30日	阪南社協新任職員研修（阪南社協／地域交流館）	尾崎
令和2年9月10日	災害対策研修（訪問看護ステーションさくら／訪問看護ステーションさくら）	大塚
令和2年9月26日	防災訓練（阪南消防署組合／阪南消防署）	尾崎

【地域包括ケアに関連する研修等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年10月23日	大阪ええまち研修（大阪府／オンライン）	熊抱
令和2年11月9日	ふくしのまちづくり研修（阪南社協／阪南市役所）	熊抱、大塚、船津、寺井
令和3年1月8日	介護予防ケアマネジメント研修（大阪府／オンライン）	寺井

【介護保険サービス集団指導】

【医師会・在宅医療関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年10月21日	ACPを理解しましょう（ふれあい四季の郷／ふれあい四季の郷）	尾崎
令和2年12月12日	ACP研修（大阪府／オンライン）	熊抱

【認知症関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年11月18日	オレンジチューター養成研修（全国キャラバンメイト連絡協議会）	岡

	会／オンライン)	
令和2年11月20日	キャラバンメイト養成研修（大阪府／大阪府社会福祉会館）	尾崎
令和3年3月24日	若年性認知症支援研修及び推進員フォローアップ研修（大阪府／オンライン）	岡
令和3年3月25日	認知症疾患医療センター研修会（認知症疾患医療センター／水間病院）	岡

【人権、権利擁護、虐待関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和2年7月19日	ヒューマンライツセミナー（阪南市／文化センター）	岡
令和2年8月19日	成年後見制度利用促進研修（阪南市／地域交流館）	熊抱

【講師協力、視察研修等】

日 時	名 称（主催／場所）	対応
令和2年11月	第3層生活支援コーディネーター養成研修（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	大塚、岡

④ メディア・広報（TV・新聞・機関紙等）への掲載

日 時	名 称	対応
令和2年6月	J-COM りんくう つながるニュース 「おにぎり会 田植え」	岡
令和2年6月	MHK ニュースほっと関西 「マスタースC a f é」	岡
令和2年12月	NHK 厚生文化事業団主催 「第4回認知症とともに生きるまち大賞」受賞 「マスタースC a f é」	岡
令和3年3月	J-COM りんくう 特別番組 「朗読劇：おにぎり会」	岡、熊抱